

豊田工業高等専門学校	建設工学専攻A	開講年度	平成31年度(2019年度)
------------	---------	------	----------------

学科到達目標

專攻科教育目標

1. 社会の変化・要請を捉え、問題を分析・抽出し、条件の下で問題を解決・提案する能力を養成する。
2. 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を養成する。
3. 報告書作成能力、図面判読能力及び、設計に関する説明力とプレゼンテーション力、討議能力を養成する。
4. 日本語による論理的な記述、口頭発表、討議能力、英語文献読解力と基本的英会話能力を養成する。
5. 建築技術が社会に与える影響を理解する能力を養成する。技術者としての誇りと責任感を養成する。

學習・教育到達度目標<http://arch.toyota-ct.ac.jp/JABEE/index.html>

【実務経験のある教員による授業科目一覧】

学科	開講年次	共通・学科	専門・一般	科目名	単位数	実務経験のある教員名
建設工学専攻（建築学）	専2年	共通	専門	情報システム工学	2	吉岡貴芳
建設工学専攻（建築学）	専2年	共通	専門	技術史	2	稲垣宏
建設工学専攻（建築学）	専1年	共通	専門	インターンシップ	4	
建設工学専攻（建築学）	専2年	学科	専門	都市空間論	2	大森峰輝
建設工学専攻（建築学）	専2年	学科	専門	建築学計測実験	2	今岡克也
建設工学専攻（建築学）	専2年	学科	専門	建築材料論	2	白田太
建設工学専攻（建築学）	専1年	学科	専門	ファシリティマネジメント	2	竹下純治

科目区分		授業科目	科目番号	単位種別	単位数	学年別週当授業時数								担当教員	履修上の区分	
						専1年				専2年						
						前		後		前		後				
						1Q	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	3Q	4Q			
一般	必修	総合英語Ⅰ	90011	学修単位	2	2									市川 裕理	
一般	必修	技術者倫理	90013	学修単位	2	2									北野 孝志	
一般	選択	歴史学	90015	学修単位	2	2									京極 俊明	
一般	選択	日本の言葉と文化	90016	学修単位	2			2							江口 啓子	選択
一般	選択	地域と産業	90018	学修単位	2			2							高橋 清吾	
一般	選択	技術英語	90511	学修単位	2			2							森上 伸也	
一般	選択	解析力学	91011	学修単位	2	2									榎本 貴志	
一般	選択	線形代数学	91012	学修単位	2	2									吉澤 毅	
一般	選択	生物化学	91018	学修単位	2	2									三浦 大和	
一般	選択	原子物理学	91022	学修単位	2			2							高村 明	
一般	選択	応用解析学Ⅰ	91023	学修単位	2			2							勝谷 浩明	
専門	選択	都市地域解析論	92023	学修単位	2			2							佐藤 雄哉	
専門	選択	インターンシップ	92511	学修単位	4	2		2							山田 耕司	
専門	選択	水工学	94014	学修単位	2			2							田中 貴幸	
専門	選択	高性能コンクリート	94017	学修単位	2			2							河野 伊知郎	
専門	選択	水質工学	94020	学修単位	2			2							松本 嘉孝	
専門	選択	応用地盤工学	94022	学修単位	2	2									小林 睦	
専門	選択	建築環境工学論	94023	学修単位	2	2									森上 伸也	
専門	選択	ファシリティマネジメント	94026	学修単位	2			2							竹下 純治	
専門	選択	環境都市CAD演習	94027	学修単位	2	2									河野 伊知郎	
専門	選択	建築学CAD演習	94031	学修単位	2	2									三島 雅博, 前田 博子	

専門	選択	建築学設計演習	94032	学修単位	2	2	亀屋 惠三子, 新任教員	
専門	選択	国際技術表現	94037	学修単位	2	2	松本 嘉孝	
専門	選択	建設工学創造実験	94038	学修単位	2	1 1	小林 睦明, 笠原 明信	
専門	選択	建築計画論	94039	学修単位	2	2	亀屋 惠三子	
専門	選択	水資源学	94043	学修単位	2	2	江端 一徳	必修
専門	必修	特別研究 I	94502	学修単位	4	2 2	鈴木 健次, 山田 耕司, 竹下 純治, 前田 博子, 亀屋 惠三子, 森上 伸也, 白田 縄諒, 太田 木輝一, 熊谷 透	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	技術者倫理
科目基礎情報						
科目番号	90013			科目区分	一般 / 必修	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	黒田・戸田山・伊勢田（編）『誇り高い技術者になろう 〔第二版〕』（名古屋大学出版会）ISBN：9 7 8-4-8 1 5 8-0 7 0 6-1／直江・盛永（編）『理系のための科学技術者倫理』（丸善出版）ISBN: 9 7 8-4-6 2 1 0-8 9 4 6-0 他					
担当教員	北野 孝志					
到達目標						
(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。 (イ)技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。 (ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。 (エ)科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。 (オ)技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を検討することができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	社会における技術者の役割と責任を理解し、現実的な問題に当てはめて考えることができる。		社会における技術者の役割と責任を理解し、説明できる。		社会における技術者の役割と責任を理解し、説明できない。	
評価項目(イ)	技術者の行動に関する基本的事項を理解し、現実的な問題に当てはめて考えることができる。		技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。		技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できない。	
評価項目(ウ)	技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を主体的に検討することができる。		技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、説明できる。		技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、説明できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 E2 誠実かつ信頼される技術者としての誇りと責任感を修得する。 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理						
教育方法等						
概要	科学技術の進歩は我々の生活環境や社会に大きな影響を及ぼし、物質的な豊かさをもたらした反面、数々の問題も引き起こしている。そして、近年科学技術を背景とする様々な事故や不祥事が表面化するにつれ、技術者自身の責任や判断に対する自覚が求められるようになってきた。そこで、この授業では技術者が直面する倫理的問題について、具体的な事例を取り上げつつ考察し、技術者としていかにあるべきかを追究していく。					
授業の進め方・方法	それぞれの授業内容についてパワー・ポイントを使って説明し、技術士一次試験適性科目過去問などを通して理解度を確認する。過去の事例のビデオや資料なども適宜利用し、倫理的な問題点や解決策についてグループで考えたりといったことも行う。					
注意点	継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
規制技術に含まれるものはない						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	技術者倫理とは：その背景と取り組み（予習：教科書の指定箇所）	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。		
		2週	技術者の責任：プロフェッションとしての技術者の特徴とその責任（復習：技術士一次試験適性科目過去問）	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。		
		3週	技術者の責任：法的責任と倫理的責任、責任ある技術者（課題：事例研究に関する課題の完成）	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。		
		4週	法的責任と倫理的責任：法の限界と倫理、倫理綱領とその意義（復習：配布資料，技術士一次試験適性科目過去問）	(ア)技術者倫理が必要とされる社会的背景や重要性を理解し、社会における技術者の役割と責任を説明できる。		
		5週	倫理問題の解決策（復習：配布資料，技術士一次試験適性科目過去問）	(イ)技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。		
		6週	安全性とリスク:リスク概念の導入、本質安全と制御安全（復習：技術士一次試験適性科目過去問，予習：教科書の指定箇所）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。		
		7週	安全性とリスク：受け入れ可能なリスクと技術的逸脱の標準化（復習：技術士一次試験適性科目過去問）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。		
		8週	安全性とリスク:リスク評価、安全性と設計（課題：事例研究に関する課題の完成）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。		
		2ndQ	9週	安全性とリスク：ヒューマンエラーと集団思考（復習：配布資料，技術士一次試験適性科目過去問）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。	

		10週	技術と環境：公害と公害輸出（復習：技術士一次試験適性科目過去問）	(工)科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。
		11週	技術と環境：地球環境問題、環境と設計（復習：配布資料）	(工)科学技術が環境に及ぼす影響を理解し、環境問題に配慮しつつ、技術者がどのように対処すべきかを考えることができる。
		12週	消費者保護の視点：不法行為法と製造物責任法（復習：技術士一次試験適性科目過去問，予習：教科書の指定箇所）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
		13週	消費者保護の視点：説明責任（復習：技術士一次試験適性科目過去問，予習：教科書の指定箇所）	(ウ)説明責任、製造物責任、リスクマネジメントなど、技術者の行動に関する基本的事項を理解し、説明できる。
		14週	組織の一員としての技術者：職務発明と守秘義務、内部告発と公益通報者保護法（復習：配布資料，技術士一次試験適性科目過去問）	(オ)技術者が組織の一員として働く上で直面する問題を理解し、その解決のあり方を検討することができる。
		15週	授業のまとめ	(イ)技術者として信用失墜の禁止と公益の確保を考慮しつつ、技術者の社会的責任について説明できる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	歴史学
科目基礎情報						
科目番号	90015			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	姫岡とし子 「ヨーロッパの家族史」 (山川出版社) / プリント、山川出版社「世界史リブレット」シリーズ					
担当教員	京極 俊明					
到達目標						
(ア)歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができる。 (イ)自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、まとめることができる。 (ウ)報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。 (エ)現代社会の問題と過去の世界との関連について考察することができる。						
ルーブリック						
		理想的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安
評価項目(ア)		歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができる。		歴史学の基本的な手法について理解することができる。		歴史学の基本的な手法について理解し、説明することができない。
評価項目(イ)		自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査・報告し、自分の見解を述べることができる。		自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、報告することができる。		自ら興味・関心をもつテーマを選び、その歴史を調査し、報告することができない。
評価項目(ウ)		報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。		報告と質疑応答に参加し、議論を行う事ができる。		報告と質疑応答に参加し、議論と改善を行う事ができない。
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 E1 日本や世界の文化や歴史を、地球的な視点から多面的に認識し、建築技術が社会に与える影響を理解する能力を修得する。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理						
教育方法等						
概要	この授業では、歴史学の基本的な知識と方法論を学び、民族、宗教、文化などが異なる社会への理解力を高めることを課題とする。まず導入として、「ヨーロッパの家族史」を取り上げ、報告を行う。その後、おちに「世界史リブレット」シリーズから、異文化理解に関係する題材を各学生が選び、報告と質疑応答を行う。					
授業の進め方・方法	導入としてテキスト「ヨーロッパの家族史」を読み、各章ごとに希望する学生にレジュメを作成して発表してもらう。それ以降は、各学生が自分でテーマを探してつ同様に発表を行う。発表の際には学生を指名し、質疑応答を行う。					
注意点	報告の際には、豊田高専図書館所蔵の「世界史リブレット」シリーズを活用して欲しい。関心があれば、より高度な専門書を用いても良い。また報告の準備のための予習、報告時に指摘された問題点についての復習を行うこと。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	イントロダクション		歴史学の多様な方法論について理解できる。	
		2週	歴史学の方法論 (予習 ヨーロッパの家族史講読)		歴史学の多様な方法論について理解できる。	
		3週	ヨーロッパの家族史報告 (第1章) (復習 レジュメの再読 予習 ヨーロッパの家族史講読)		テキスト「ヨーロッパの家族史」第1章についての報告と質疑応答ができる。	
		4週	ヨーロッパの家族史報告 (第2, 3章) (復習 レジュメの再読 予習 ヨーロッパの家族史講読)		テキスト「ヨーロッパの家族史」第2, 3章について報告と質疑応答ができる。	
		5週	ヨーロッパの家族史報告 (第4, 5章) (復習 レジュメの再読 予習 発表の準備)		テキスト「ヨーロッパの家族史」第4, 5章について報告と質疑応答ができる。	
		6週	学生報告 (1)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
		7週	学生報告 (2)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
	8週	学生報告 (3)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。		
	2ndQ	9週	学生報告 (4)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
		10週	学生報告 (5)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
		11週	学生報告 (6)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
		12週	学生報告 (7)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	
		13週	学生報告 (8)、報告内容は各自が選択 (報告と質疑応答で30分程度、1回の授業で2組を想定) (予習 発表の準備)		2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。	

		14週	学生報告（9）、報告内容は各自が選択（報告と質疑 応答で30分程度、1回の授業で2組を想定）（予習 発表の準備）	2名の学生が自分の選んだテーマで報告、質疑応答ができる。
		15週	現代の諸問題と歴史学の意義（予習 過去の報告と現代についての考察）	歴史学と現代の諸問題の関係について理解できる。
		16週		
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標				
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル 授業週
評価割合				
		定期試験	課題	合計
総合評価割合		50	50	100
分野横断的能力		50	50	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	日本の言葉と文化	
科目基礎情報							
科目番号	90016			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜プリントを配布する。						
担当教員	江口 啓子						
到達目標							
(ア)自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できる。 (イ)文および文章の構造を理解し、適切に表現することができる。 (ウ)様々な論証の方法を理解し、目的に応じて適切に活用できる。 (エ)目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に伝わる論作文・レポートを作成できる。 (オ)作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用し、研究報告を作成できる。			自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できる。		自分の専門分野に関する用語を、思考や表現に適切に活用できない。	
評価項目(イ)	文・文章の構造を理解し、適切に表現し、研究報告を作成できる。			文・文章の構造を理解し、適切に表現することができる。		文・文章の構造を理解し、適切に表現することができない。	
評価項目(ウ)	目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成した上で研究発表を行うことができる。			目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成できる。		目的に応じて適切な情報収集を行い、分析・整理を経て、主張が効果的に論証された論作文・レポート・プレゼンテーションを作成することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 D1 日本語により論理的な記述、口頭発表、討議等ができる。 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力							
教育方法等							
概要	論理的な日本語力を身につけるための実践的トレーニングを行う。具体的には、文章表現の基礎として日本語の文構造および語順について学んだ上で、情報収集・分析・整理そして論証についての理論学習および実践を行う。						
授業の進め方・方法	今後の進学・就職を見据えて、論理力およびそれに根ざした日本語力を鍛えることを目的とする。論作文・レポートのテーマ候補は授業担当者が予め準備しているが、受講者と相談しつつ調整する。						
注意点	本科4年次「日本語表現」の学習内容はすべて習得済みであることを前提に授業を進める。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
一般 / 選択 規制技術に含まれるものはない							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
選択							
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス (到達目標の提示と注意点の確認) 〔予習 : 本科4年次「日本語表現」の学習内容を確認する〕		到達目標と注意点を理解できる。論理力とは何かを理解できる。		
		2週	論理力を養う1 (文構造) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		文構造を正しく理解・表現することができる。		
		3週	論理力を養う2 (語順) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		語順を正しく理解・表現することができる。		
		4週	論理力を養う3 (文の接続) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		接続語を正しく理解・表現することができる。		
		5週	論理力を養う4 (情報の整理) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		思考を整理し、適切な文章を書くことができる。		
		6週	論理力を養う5 (事実と主張) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		事実と主張の区別、自他の意見の区別ができる。		
		7週	論理力を養う6 (論証の方法) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		主張を支える根拠を正しく示すことができる。		
		8週	論理力を養う7 (論の構造) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		論文の基本構成を理解して、論を展開できる。		
	4thQ	9週	論理力を養う8 (正確な言葉選び1) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		目的や状況に応じて正しい言語運用ができる。		
		10週	論理力を養う9 (正確な言葉選び2) 〔復習 : 授業で読解した評論の理解を深める〕		目的や状況に応じて正しい言語運用ができる。		
		11週	論理力を養う10 (レポート議論) 〔課題 : テーマに関する情報を集める〕		思考を整理し、選んだテーマについて議論できる。		
		12週	論理力を養う11 (レポート構想) 〔課題 : 情報を整理して資料を作成する〕		適切な情報収集を行い、グループで共有し、議論できる。		
		13週	論理力を養う12 (レポート執筆) 〔課題 : レポートの原案を仕上げる〕		収集した情報を適切に用いて、レポート作成ができる。		

		14週	論理力を養う12（レポート推敲・プレゼンテーション1） 〔課題：レポートの校正と清書を行う〕	レポート原案を推敲して、完成できる。 的確な口頭発表の方法を理解できる。		
		15週	論理力を養う13（プレゼンテーション2）・まとめ 〔復習：論理力に関する学習の総復習を行う〕	的確な口頭発表の方法を実践できる。 学習内容・学習成果を振り返り、整理できる。		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
	定期試験		小テスト		課題	合計
総合評価割合		50	20		30	100
分野横断的能力		50	20		30	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	地域と産業
科目基礎情報						
科目番号	90018			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	教科書は特に指定せず、講義はプリントに沿っておこなう。					
担当教員	高橋 清吾					
到達目標						
(ア)地理学の基本的な手法について理解し、説明することができる。 (イ)受講生が主題に基づき調査を実施し、論理的にまとめることができる。 (ウ)報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。 (エ)産業の成立・発展と地域性及び歴史的条件との関連を考察することができる。						
ルーブリック						
	到達レベルの目安(優)		到達レベルの目安(良)		到達レベルの目安(不可)	
評価項目 (ア)	地理学の基本的な手法について理解し、説明することができる。		地理学の基本的な手法について理解することができる。		地理学の基本的な手法について理解することができない。	
評価項目 (イ)	受講生が主題に基づき調査を実施し、論理的にまとめることができる。		受講生が主題に基づき調査を実施し、まとめることができる。		受講生が主題に基づき調査を実施し、まとめることができない。	
評価項目 (ウ)	報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。		報告と質疑応答に積極的に参加し、改善できる。		報告と質疑応答に積極的に参加し、改善できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 E1 日本や世界の文化や歴史を、地球的な視点から多面的に認識し、建築技術が社会に与える影響を理解する能力を修得する。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理						
教育方法等						
概要	本講義では、地理学の基本的な知識と方法論を学び、各種産業が成立し、発展する過程について理解力を高めることを目標とする。座学で学びえた知識・技能を活かし、受講生が各地の産業の成立要因および発展に至るまでを調査・発表する。発表及び質疑応答状況については課題点として評価する。					
授業の進め方・方法	授業期間中の7回程度を座学とし、講義を通じて人文科学の研究視角について学ぶ。後半の7回は受講者が講義から学びえた知識および技能を用いて調査を実施し、報告・討論を行うことにする。					
注意点	産業の発展・成立には当該地域の地域性や歴史的条件が関連することに関心を持ち、積極的に自ら調べたり、考えること。継続的に授業の予習・復習をすること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	導入 (自学自習内容：授業の復習、自ら産業の発展・成立と地域との関係について考え、調べる。)		地理学の基礎的な研究手法を理解できる。	
		2週	(事例1) 産業の成立 (自学自習内容：授業の復習、自ら産業の発展・成立と地域との関係について考え、調べる。)		地理学の基礎的な研究手法を理解できる。産業の成立・発展と地域性及び歴史的条件との関連を考察することができる。	
		3週	事例1の要因と地域性と歴史的関係 (自学自習内容：授業の復習、自ら産業の発展・成立と地域との関係について考え、調べる。)		地理学の基礎的な研究手法を理解できる。産業の成立・発展と地域性及び歴史的条件との関連を考察することができる。	
		4週	事例1のまとめ (自学自習内容：授業の復習、自ら産業の発展・成立と地域との関係について考え、調べる。)		地理学の基礎的な研究手法を理解できる。産業の成立・発展と地域性及び歴史的条件との関連を考察することができる。	
		5週	(事例2) 産業の成立 (自学自習内容：授業の復習、自ら産業の発展・成立と地域との関係について考え、調べる。)		地理学の基礎的な研究手法を理解できる。産業の成立・発展と地域性及び歴史的条件との関連を考察することができる。	
		6週	事例2の要因と地域性と歴史的関係 (自学自習内容：授業の復習、自ら産業の発展・成立と地域との関係について考え、調べる。)		地理学の基礎的な研究手法を理解できる。産業の成立・発展と地域性及び歴史的条件との関連を考察することができる。	
		7週	事例2のまとめ (自学自習内容：授業の復習、自ら産業の発展・成立と地域との関係について考え、調べる。)		地理学の基礎的な研究手法を理解できる。産業の成立・発展と地域性及び歴史的条件との関連を考察することができる。	
		8週	報告 (1) (報告や議論のための準備)		産業の成立と発展について調査し、論理的にまとめることができる。報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。	
	4thQ	9週	報告 (2) (報告や議論のための準備)		産業の成立と発展について調査し、論理的にまとめることができる。報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。	
		10週	報告 (3) (報告や議論のための準備)		産業の成立と発展について調査し、論理的にまとめることができる。報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。	
		11週	報告 (4) (報告や議論のための準備)		産業の成立と発展について調査し、論理的にまとめることができる。報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。	

		12週	報告（5） （報告や議論のための準備）	産業の成立と発展について調査し、論理的にまとめることができる。報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。
		13週	報告（6） （報告や議論のための準備）	産業の成立と発展について調査し、論理的にまとめることができる。報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。
		14週	報告（7） （報告や議論のための準備）	産業の成立と発展について調査し、論理的にまとめることができる。報告と質疑応答に積極的に参加し、建設的な議論と改善を行う事ができる。
		15週	授業のまとめ	これまでの内容を整理し、理解を深める。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	技術英語
科目基礎情報						
科目番号	90511		科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A		対象学年	専1		
開設期	後期		週時間数	2		
教科書/教材	「ポイントで学ぶ科学英語論文の書き方」 小野義正 著 丸善株式会社					
担当教員	森上 伸也					
到達目標						
(ア)英語論文の構造と流れを説明できる。 (イ)英文で図や表をわかりやすく説明できる。 (ウ)技術論文において、動詞の適切な時制、句読点の用い方を把握している。 (エ)自分の研究を英文100wordで他人に説明する文章を作成できる。 (オ)建築関連領域の英文を論旨にそって日本語らしく訳し、他人に説明できる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安(可)	
評価項目(ア)	英語論文の構造と流れを説明できる。		基礎的な英語論文の構造と流れを説明できる。		基礎的な英語論文の構造と流れを説明できない。	
評価項目(イ)	英文で図や表をわかりやすく説明できる。		基礎的な英文で図や表をわかりやすく説明できる。		基礎的な英文で図や表を説明できない。	
評価項目(ウ)	技術論文において、動詞の適切な時制、句読点の用い方を把握している。		基礎的な技術論文において、動詞の適切な時制、句読点の用い方を把握している。		基礎的な技術論文において、動詞の適切な時制、句読点の用い方を把握していない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 D2 語文献などの読解力と基本的な英語コミュニケーション能力を修得する。 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力						
教育方法等						
概要	工学分野での新技術、新工法、研究成果は、専門学術論文誌や各学会での講演集などにより、多くの人々に紹介される。これからのエンジニアには、自らの研究成果・新技術などをわかりやすい英文にまとめて発表することや、最新の知見を得るため、国際的な学術論文誌を読み取る能力が要求される。専門分野の英語は、比較的理解しやすい面もあるが、慣れが必要である。そこで、専門分野の英語の読解と、英文の作成技術を向上させることを目的とする。明解で簡潔な英文を書くことは勿論、論文全体の構成法も学ぶ。					
授業の進め方・方法	教科書、配布プリントとパワーポイントを用いて、授業を進める。					
注意点	(自学自習内容)授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等について予め調べてくること。授業内容に関連する課題を毎回提出すること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
規制技術に含まれるものはない						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	英文の構造とフローチャート：文章構造、明解な結論と理由の提示 自学自習（担当部分の購読とまとめ）		上記（ア）（イ）	
		2週	英語論文の各構成項目：抄録、序論、本論、結果、考察、結論、参考文献 自学自習（担当部分の購読とまとめ）		上記（ア）（イ）	
		3週	明確な英文の書き方：適切な動詞の時制、文章の一貫性、句読点 自学自習（担当部分の購読とまとめ）		上記（ウ）	
		4週	明確な英文の書き方：適切な動詞の時制、文章の一貫性、句読点 自学自習（担当部分の購読とまとめ）		上記（ウ）	
		5週	英語作文：自分の卒業研究を100wordにまとめる 自学自習（研究要旨の英訳）		上記（イ）（ウ）（エ）	
		6週	英語作文：自分の卒業研究を100wordにまとめる 自学自習（研究要旨の英訳・添削）		上記（イ）（ウ）（エ）	
		7週	英語作文：自分の卒業研究を100wordにまとめる 自学自習（研究要旨の英訳・添削）		上記（イ）（ウ）（エ）	
		8週	英語作文：自分の卒業研究を100wordにまとめる 自学自習（研究要旨の英訳・完成・提出）		上記（イ）（ウ）（エ）	
	4thQ	9週	専門論文の輪読 自学自習（配布資料の理解）		上記（オ）	
		10週	専門論文の輪読 自学自習（配布資料の理解）		上記（オ）	
		11週	専門論文の輪読 自学自習（配布資料の理解）		上記（オ）	
		12週	専門論文の輪読 自学自習（配布資料の理解）		上記（オ）	
		13週	専門論文の輪読 自学自習（配布資料の理解）		上記（オ）	

		14週	専門論文の輪読 自学自習（配布資料の理解）	上記（オ）		
		15週	後期の総まとめ 自学自習（1～15回の総復習）	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）		
		16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標						
分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合						
		定期試験	課題		合計	
総合評価割合		40	60		100	
分野横断的能力		40	60		100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	解析力学
科目基礎情報						
科目番号	91011			科目区分	一般 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	「理・工基礎 解析力学」 田辺 行人・品田 正樹 著（裳華房）					
担当教員	榎本 貴志					
到達目標						
(ア)簡単な系について、仮想仕事の原理を用いて、系のつり合いの条件を調べることができる。 (イ)系の安定・不安定を調べることができる。 (ウ)ダランベールの原理を使って、運動力学から静力学の視点に移すことができる。 (エ)簡単な系の運動について、ラグランジュの運動方程式を立て、求めることができる。 (オ)連成振動をする質点系について、ラグランジュの運動方程式を立て、基準振動数を評価できる。 (カ)物理的な意味を理解した上で、オイラーの微分方程式を使うことができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	仮想仕事の原理、およびダランベールの原理を用いて、系のつり合いの条件に関する応用問題を解くことができる。		仮想仕事の原理、およびダランベールの原理を用いて、系のつり合いの条件に関する基礎的な問題を解くことができる。		仮想仕事の原理、およびダランベールの原理を用いて、系のつり合いの条件に関する基礎的な問題を解くことができない。	
評価項目(イ)	ラグランジュの運動方程式を用いて、振動する系についての応用問題を解くことができる。		ラグランジュの運動方程式を用いて、振動する系についての基礎的な問題を解くことができる。		ラグランジュの運動方程式を用いて、振動する系についての基礎的な問題を解くことができない。	
評価項目(ウ)	オイラーの微分方程式を使って、極値問題に関する応用問題を解くことができる。		オイラーの微分方程式を使って、極値問題に関する基礎的な問題を解くことができる。		オイラーの微分方程式を使って、極値問題に関する基礎的な問題を解くことができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B1 数学、自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらに応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力						
教育方法等						
概要	本講義では、解析力学を学ぶ。力学の大きな流れから言うと、解析力学は、ニュートン力学（古典力学）と量子力学の掛け橋的な立場にある。解析力学の一番の特徴は、系の運動を、運動力学といった視点から静力学という視点に移し変えて議論する点にある。また、質点系の位置・速度・加速度や力といった観点ではなく、質点系のエネルギーという観点から、系を取り扱うという特徴もある。これにより、より複雑な質点系の運動を取り扱うことができるのである。					
授業の進め方・方法	各項目における理論的概要を解説した後、その手法に特化した演習を行う。また、この理解度を確認するために課題を設定する。					
注意点	古典力学をある程度理解しているという前提の上で、講義を行う。 自学自習内容：講義の内容について、毎回復習を行うこと。また、項目の節目において、理解度の確認のための課題を出すので、必ず提出すること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
規制技術に含まれるものはない						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	仮想仕事の原理：束縛力と既知力、仮想変位、仮想仕事の原理（自学自習内容）授業内容の復習を行うこと。		力の分類（束縛力・既知力）ができ、仮想仕事の概念が説明	
		2週	仮想仕事の原理：束縛力と既知力、仮想変位、仮想仕事の原理（自学自習内容）授業内容の復習を行うこと。		簡単な系で、仮想変位を調べ、仮想仕事を求めることができる。	
		3週	仮想仕事の原理：束縛力と既知力、仮想変位、仮想仕事の原理（自学自習内容）授業内容の復習を行い、課題をやつてくること。		既知力が保存力であるような系について、位置エネルギーから仮想仕事を求めることができる。また、系の平衡の安定性について判別できる。	
		4週	ダランベールの原理：ダランベールの原理と慣性力（自学自習内容）授業内容の復習を行うこと。		ダランベールの原理を使って、運動学的視点から静力学的視点に写すことができる。	
		5週	ダランベールの原理：ダランベールの原理と慣性力（自学自習内容）授業内容を復習し、課題をやつてくること。		定常状態にある系について、ダランベールの原理、および仮想仕事の原理を用いて、仮想仕事を求めることができ。	
		6週	ラグランジュの第一種運動方程式：未定乗数法、ラグランジュの第一種運動方程式（自学自習内容）授業内容の復習を行うこと。		簡単な系について、ラグランジュの未定乗数法を適用することができる。	
		7週	ラグランジュの第一種運動方程式：未定乗数法、ラグランジュの第一種運動方程式（自学自習内容）授業内容の復習を行うこと。		ラグランジュの第一種運動方程式を用いて、具体的な運動方程式を求め、それを解くことができる。	
		8週	ラグランジュの第二種運動方程式：一般座標と一般化された力、ラグランジアン、ラグランジュの運動方程式（自学自習内容）授業内容の復習を行うこと。		座標の一般化と、それに伴う力の一般化の概念が理解できる。	

2ndQ	9週	ラグランジュの第二種運動方程式： 一般座標と一般化された力，ラグランジアン，ラグランジュの運動方程式 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	座標の一般化に応じて，仮想仕事の原理の式を書き換えることができる。
	10週	ラグランジュの第二種運動方程式： 一般座標と一般化された力，ラグランジアン，ラグランジュの運動方程式 (自学自習内容) 授業内容を復習し，課題をやってみること。	1個の質点から成る振動系について，ラグランジュの第2種運動方程式を用いて運動方程式を立て，それを解くことができる。
	11週	ラグランジュの運動方程式応用： 質点系の取扱い，連成振動，連成振り子 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	2個以上の質点が作用し合いながら振動する系について，第2種運動方程式を用いて運動方程式を立て，それを解くことができる。
	12週	ラグランジュの運動方程式応用： 質点系の取扱い，連成振動，連成振り子 (自学自習内容) 授業内容を復習し，課題をやってみること。	連成振動系の基準振動を求め，それぞれの振動モードに対する振動現象を理解することができる。
	13週	変分法： 変分法，オイラーの微分方程式 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	物理量の極値を求めるに当たり，オイラーの微分方程式をどのように使うか説明できる。
	14週	変分法： 変分法，オイラーの微分方程式 (自学自習内容) 授業内容を復習し，課題をやってみること。	歴史上有名な諸問題（最速降下線など）について，オイラーの微分方程式がどのように使われているか説明することができる。
	15週	ハミルトンの原理： ラグランジュ関数，ハミルトンの原理 (自学自習内容) 授業内容の復習を行うこと。	束縛条件の下での極値問題の取り扱いの仕方について説明できる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
分野横断的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	原子物理学	
科目基礎情報							
科目番号	91022			科目区分	一般 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない／最先端の科学記事と授業プリントを配布						
担当教員	高村 明						
到達目標							
(ア)ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解ける。 (イ)放射性元素に関連した基礎的問題が解ける。 (ウ)原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解ける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	ヤングの干渉実験やブラック反射の問題が解ける。			ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解ける。		ヤングの干渉実験やブラック反射の基礎的問題が解けない。	
評価項目(イ)	放射性元素に関連した問題が解ける。			放射性元素に関連した基礎的問題が解ける。		放射性元素に関連した基礎的問題が解けない。	
評価項目(ウ)	原子モデルや光電効果に関連した問題が解ける。			原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解ける。		原子モデルや光電効果に関連した基礎的問題が解けない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B1 数学、自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要	原子・分子といったミクロの世界ではニュートン力学、マックスウェルの電磁気学、流体力学などはもはや成立せず、人間が物質に対してもつ自然な感覚や考え方は成立しない。ミクロな世界はマクロな世界と違って、粒子と波動の性質をあわせ持つことが本質あることが20世紀の物理学で明らかになった。粒子は大きさがなく、エネルギーや運動量を持つのに対し、波動は広がりがあり、波の強さや波長を持つので、両者は異なるからのである。この講義では20世紀に発展したミクロの世界の物理学を学ぶ。						
授業の進め方・方法	最先端の科学記事と授業プリントを配布。授業内容に関する演習プリントを毎回提出すること。						
注意点	授業後に科学記事と授業プリントを必ず復習し、学習内容の理解を深めること。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
規制技術に含まれるものはない							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
後期	3rdQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	既習事項の確認。力学と電気の復習。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		力学と電気の基礎的な問題が解ける		
		2週	ヤングの干渉実験とブラック反射。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		ヤングの干渉実験とブラック反射を理解する		
		3週	原子核と電子からなる原子。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		原子の構造を理解する		
		4週	問題演習。演習プリントを提出すること。		これまでの内容を総括的に理解する		
		5週	放射性元素と年代測定。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		放射性元素の意味を理解する		
		6週	黒体輻射とプランクの公式。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		黒体輻射の意味を理解する		
		7週	総合演習。総復習プリントを提出すること。		これまでの内容を総括的に理解する		
	8週	中間試験		しっかり勉強し、試験に備える事			
	4thQ	9週	光電効果と光の粒子性。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		光電効果の意味を理解する		
		10週	コンプトン散乱と原子スペクトル。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		コンプトン散乱と原子スペクトルを理解する		
		11週	問題演習。演習プリントを提出すること。		これまでの内容を総括的に理解する		
		12週	ボーアの量子条件。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		ボーアの量子条件を理解する		
		13週	ド・ブロイの物質波と電子顕微鏡。授業内容に関する演習プリントを提出すること。		ド・ブロイの物質波の意味を理解する		
		14週	問題演習。演習プリントを提出すること。		これまでの内容を総括的に理解する		
		15週	総合演習。総復習プリントを提出すること。		これまでの内容を総括的に理解する		
16週							
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標							
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標			到達レベル	授業週
評価割合							
	中間試験		定期試験		課題	合計	
総合評価割合	30		50		20	100	

分野横断的能力	30	50	20	100
---------	----	----	----	-----

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	応用解析学 I	
科目基礎情報							
科目番号		91023		科目区分		一般 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		建設工学専攻A		対象学年		専1	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		特に指定しない。 / 教材プリントを配布					
担当教員		勝谷 浩明					
到達目標							
(ア)ラプラス変換の定義や性質を理解する。 (イ)ラプラス変換の計算ができる。 (ウ)ラプラス変換を用いて定数係数線形微分方程式を解ける。 (エ)フーリエ級数の定義や性質を理解する。 (オ)フーリエ級数の計算ができる。 (カ)フーリエ変換の定義や性質を理解する。 (キ)フーリエ変換の計算ができる。 (ク)フーリエ級数・フーリエ変換を用いて重要な偏微分方程式を解く方法を理解する。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(1)		ラプラス変換の性質及び計算法を理解して、微分方程式の解法に応用できる。		ラプラス変換の性質及び計算法を理解している。		ラプラス変換の性質及び計算法を理解していない。	
評価項目(2)		フーリエ級数の性質及び計算法を理解して、偏微分方程式の解法に応用できる。		フーリエ級数の性質及び計算法を理解している。		フーリエ級数の性質及び計算法を理解していない。	
評価項目(3)		フーリエ変換の性質及び計算法を理解して、偏微分方程式の解法に応用できる。		フーリエ変換の性質及び計算法を理解している。		フーリエ変換の性質及び計算法を理解している。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B1 数学、自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらに応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要		ラプラス変換やフーリエ変換は、自動制御や電気回路や構造物の振動解析など工学の様々な分野で利用される重要な手法である。本科目では、フーリエ級数も含めて、これらの定義や性質を学び、計算法を習得する。そして応用として、工学的に重要な微分方程式の解法を学ぶ。					
授業の進め方・方法		配付した授業プリントに沿って講義する。					
注意点		(自学自習内容) 配付する教材プリントを読んで予習・復習し、プリントに記載された問題を解くこと。					
選択必修の種別・旧カリ科目名							
規制技術に含まれるものはない。							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	微分積分の復習 (課題: 積分の計算)		科目の理解に必要な積分の概念及び計算を理解する。		
		2週	微分積分の復習 (課題: 広義積分及び極限値の計算)		関数の極限及び広義積分の概念及び計算を理解する。		
		3週	ラプラス変換の定義 (課題: 定義に直接従うラプラス変換の計算)		ラプラス変換の定義を理解する。		
		4週	ラプラス変換の性質 (課題: 性質を用いたラプラス変換の計算)		ラプラス変換の性質を理解する。		
		5週	ラプラス変換の計算 (課題: 定理を用いるラプラス変換の計算)		定理を用いてラプラス変換の計算ができるようになる。		
		6週	逆ラプラス変換 (課題: 逆ラプラス変換の計算)		逆ラプラス変換の計算ができるようになる。		
		7週	ラプラス変換を用いる定数係数線形微分方程式の解法 (課題: ラプラス変換を用いる定数係数線形微分方程式の解法)		ラプラス変換を用いて定数係数線形微分方程式の初期値問題を解けるようになる。		
		8週	フーリエ級数の定義 (課題: フーリエ級数の計算法)		周期2nの周期関数のフーリエ級数の定義を理解する。		
	4thQ	9週	フーリエ級数の拡張 (課題: フーリエ級数の計算)		一般的な周期関数のフーリエ級数を理解する		
		10週	特殊な関数のフーリエ級数 (課題: フーリエ級数の計算)		偶関数・奇関数のフーリエ級数及び定義域が有界である関数のフーリエ級数を理解する。		
		11週	フーリエ級数を用いる偏微分方程式の解法 (課題: フーリエ級数を用いる偏微分方程式の解法)		フーリエ級数を用いる偏微分方程式の解法を理解する。		
		12週	複素形フーリエ級数 (課題: 複素形フーリエ級数の計算)		複素形フーリエ級数を理解する。		
		13週	フーリエ変換の定義 (課題: 定義に直接従うフーリエ変換の計算)		複素形フーリエ級数からフーリエの積分公式が導かれることを理解する。		
		14週	フーリエ変換の性質 (課題: 定理を用いるフーリエ変換の計算)		フーリエ変換の性質を理解する。		
		15週	フーリエ変換を用いる偏微分方程式の解法		フーリエ変換を用いる偏微分方程式の解法を理解する。		
		16週					

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	40	20	40	100	
分野横断的能力	40	20	40	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	都市地域解析論	
科目基礎情報							
科目番号		92023		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		建設工学専攻A		対象学年		専1	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		特に指定しない／適宜、プリントを配布する					
担当教員		佐藤 雄哉					
到達目標							
(ア)空間解析を行うことの意味を理解し、説明できる。 (イ)GISの仕組みとその有用性について理解し、実例と関連付けて説明できる。 (ウ)地図の種類や表現手法を説明できる。 (エ)統計データの整備状況を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。 (オ)空間解析手法を活用した地域分析について理解し、実際に取り組める。 (カ)地図などを用いて地域の特性把握に取り組むことができる。 (キ)空間的データから地域の課題や特徴を把握することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)		空間解析を行うことの意味その実際、GISの仕組みとその有用性について理解し、応用的な事例について説明できる。		空間解析を行うことの意味やGISの仕組みとその有用性について理解し、実例と関連付けて説明できる。		空間解析を行うことの意味やGISの仕組みとその有用性について理解しておらず、実例と関連付けて説明できない。	
評価項目(イ)		地図の種類や表現手法を説明できるとともに、その活用事例を考察することができる。また、統計データの整備状況とその活用実態を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。さらに、空間解析手法を活用した応用的な地域分析について理解し、実際に取り組める。		地図の種類や表現手法を説明できるとともに、統計データの整備状況を理解し、実地域の統計データを使用して現状を把握できる。また、空間解析手法を活用した地域分析について理解し、実際に取り組める。		地図の種類や表現手法を説明できず、統計データの整備状況を理解しておらず、実地域の統計データを使用して現状を把握できていない。また、空間解析手法を活用した地域分析について理解しておらず、実際に取り組めない。	
評価項目(ウ)		空間的データから複合的に地域の課題や特徴を把握することができる。また、地図など複数の既存の画像データなどを用いて地域特性を把握することができる。		空間的データから地域の課題や特徴を把握することができる。また、地図を用いて地域特性を把握することができる。		空間的データから地域の課題や特徴を把握することができない。また、地図を用いて地域特性を把握することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B1 数学、自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ② 基礎学力 本校教育目標 ③ 問題解決能力							
教育方法等							
概要		都市・地域の情報を地理的に分析し、その科学的な結果を根拠とし都市計画や都市政策における意思決定に反映させることは重要である。現在、産官問わず都市計画に係る多くの実務においてGIS（Geographic Information System：地理情報システム）が活用されており、今後なお一層の利活用が期待される。本科目では、都市・地域の課題を明らかにするための知識や技能の習得を目指す。					
授業の進め方・方法		本講義では、定量的に都市・地域を解析するための理論を学ぶとともに、実際に身近な都市・地域のデータを分析することにより、都市・地域の課題を明らかにするための手法を学ぶ。					
注意点		（自学自習内容）授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。 自学自習内容として指定した項目は、「課題」として評価に組み込む場合もある。また、自学自習内容として指定した項目を遂行している前提で定期試験を行う。					
選択必修の種別・旧カリ科目名							
規制技術に含まれるものはない							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容			週ごとの到達目標	
後期	3rdQ	1週	地理情報システム（GIS）の概要：地図の表現手法（凡例・縮尺）、地理情報データの構成要素、投影法（復習：GISの活用事例）			地理情報システム（GIS）の概要を理解している。	
		2週	GISの適用事例：防災、防犯、マーケティングなど（復習：投影法・測地系・座標系）			GISの適用事例を考察できる。	
		3週	地理情報のデータベース化：ラスタ化、ベクタ化、地理座標系、投影座標系など（復習：GISの利用事例）			地理情報のデータベース化について説明できる。	
		4週	地理情報のデータベース化：ラスタ化、ベクタ化、地理座標系、投影座標系など（復習：一般図と主題図の違い）			地理情報のデータベース化について説明できる。	
		5週	地域の問題の可視化：統計データ（国勢調査等）を活用した小地域の分析など（復習：ポロノイ分割）			地域の問題を可視化するための分析手法を説明できる。	
		6週	地域の問題の可視化：統計データ（国勢調査等）を活用した小地域の分析など（復習：面積按分の手法）			地域の問題を可視化するための分析手法を用いて、実際に分析に取り組める。	
		7週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ポロノイ分割、面積按分など（復習：国勢調査の小地域）			空間解析手法の概要について理解している。	

4thQ	8週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ボロノイ分割、面積按分など（復習：様々なGISソフト）	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。
	9週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ボロノイ分割、面積按分など（復習：空間解析手法）	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。
	10週	空間解析手法の概要と実践：属性検索、ボロノイ分割、面積按分など（復習：バッファとインターセクト）	空間解析手法を用いて、実際に分析に取り組める。
	11週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：公開されているGISデータ）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
	12週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：空間解析手法）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
	13週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：国が整備しているGISデータ）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
	14週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：航空写真による地域の経年変化）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
	15週	オープンGISデータの活用：オープンGISデータを活用した地域解析など（復習：人口ピラミッドの作成方法）	実際の地域を取り上げ、GISを活用しながら地域課題の把握に取り組める。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	50	20	30	100	
分野横断的能力	50	20	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度（2024年度）		授業科目	インターンシップ	
科目基礎情報							
科目番号		92511		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		実習		単位の種別と単位数		学修単位: 4	
開設学科		建設工学専攻A		対象学年		専1	
開設期		通年		週時間数		2	
教科書/教材		特に指定しない					
担当教員		山田 耕司					
到達目標							
(ア)実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 (イ)配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。 (ウ)実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめることができる。 (エ)実習を通して気がついた点、自己の反省すべき点を指摘することができる。 (オ)実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚教材等を用いて口頭で説明することができる。 (カ)実習を通して考えた「技術者に求められる倫理（すべきこと、すべきでないこと）」を他人に説明できる。							
ループリック							
		最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)	
評価項目(ア)(イ)(エ)		実習配属先の業務内容を理解し、指示にしたがって安全に作業し、自己改善ができる。		実習配属先の業務内容を理解し、指示にしたがって安全に作業することができる。		実習配属先の業務内容を理解し、指示にしたがって安全に作業することができない。	
評価項目(ウ)(オ)		実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめ、適切に説明することができる。		実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめ、説明することができる。		実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめ、説明することができない。	
評価項目(カ)		「技術者に求められる倫理（すべきこと、すべきでないこと）」を他人に適切に説明できる。		「技術者に求められる倫理（すべきこと、すべきでないこと）」を他人に説明できる。		「技術者に求められる倫理（すべきこと、すべきでないこと）」を他人に説明できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 C1 実験・実習を通して、計測技術やデータ分析法、報告書作成能力を修得する。 学習・教育到達度目標 E2 誠実かつ信頼される技術者としての誇りと責任感を修得する。 JABEE b 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者が社会に対して負っている責任 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ③ 問題解決能力 本校教育目標 ⑤ 技術者倫理							
教育方法等							
概要		建築関連の一般企業や、公社公団を含めた国や地方自治体での職場体験を通して、先進技術や社会の中での技術者としてのあり方を学ぶ。技術上の側面では、教室では学ぶ機会の少ない工学理論の技術への応用、実作業を通して初めてわかる設計や施工上の難しさ、興味深さを習得する。また、短期間ではあるが、実習配属先で実際に業務に携わることに、社会の一員としての自覚と責任を体得することを目的とする。なお、建築学科では、建築に係る施工管理、設計、行政、研究など幅広い校外実習先が用意されている。実習中は実務内容を理解し、実際に実務あるいは実務補助を行う。実習終了後、報告書と口頭によるプレゼンテーションにより、実習内容を要領よくまとめて報告する。					
授業の進め方・方法		受講生は、実習配属先の担当者より指導を受け、自ら主体的に与えられたテーマに取り組む。成果は、概要集にまとめ、さらに教職員ならびに学生の前で研究成果を発表する。（授業内容・方法は以下を参照）					
注意点		建築学科の実習先は、建設業、設計会社、官公庁、建設系製造業などに大別される。実習先の違いにより実習内容に差異はあるが、実務内容を理解し、実際に実務あるいは実務補助を行うこと。					
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	実習配属先の業務内容の把握：技術的側面と組織全体での業務役割の理解		実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指		
		2週	実習配属先の業務内容の把握：技術的側面と組織全体での業務役割の理解		実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。		
		3週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成		実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。		
		4週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成		実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。		
		5週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成		実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。		
		6週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成		実習配属先の業務内容を、組織上の役割と技術的な内容の両面から理解する。 配属先の上司の指示にしたがって安全に作業することができる。		

[illegible]

		13週	実務作業：設計、施工管理、積算、製造等および日報（実務から修得した事柄を含む）の作成	実務作業内容と成果を要領よく文書でまとめることができる。 実習を通して気がついた点、自己の反省すべき点を指摘することができる
		14週	実習報告会でのプレゼンテーション：上記(2)－(4)の内容をまとめ、限られた時間内で視聴覚教材等を用いての説明会の実施	実習を通して気がついた点、自己の反省すべき点を指摘することができる 実習内容、自己の習得した事柄を、写真や図表などの視聴覚教材等を用いて口頭で説明することができる
		15週		
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		実習内容	報告書	発表会	合計
総合評価割合		40	30	30	100
分野横断的能力		40	30	30	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	水工学
科目基礎情報						
科目番号	94014			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	後期			週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない。／「明解 水理学」 日野幹雄 著 (丸善) ISBN: 978-4621027783、配布プリント					
担当教員	田中 貴幸					
到達目標						
(ア)流体の性質、流れの可視化手法について説明できる。 (イ)流れ場における一般的な質量保存則を理解する。 (ウ)Eulerの運動方程式の成り立ちについて理解する。 (エ)Navier-Stokes方程式を導くことができる。 (オ)渦度の意味、渦なしと渦ありの流れの差異を理解する。 (カ)渦度方程式を導くことができる。 (キ)速度ポテンシャルを用いて連続の方程式と運動方程式を考え、拡張されたベルヌーイの式を説明できる。 (ク)Navier-Stokes方程式を用いる円管層流の理論解を理解する。 (ケ)平均流の挙動を記述する基礎方程式の導出方法とレイノルズ応力の意味を理解する。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	流体の性質、流れの可視化手法について説明できる。		流体の性質、流れの可視化手法について理解できる。		流体の性質、流れの可視化手法について理解できない。	
評価項目(イ)	流れ場における一般的な質量保存則を理解し、説明できる。		流れ場における一般的な質量保存則を理解する。		流れ場における一般的な質量保存則を理解できない。	
評価項目(ウ)	Eulerの運動方程式の成り立ちについて理解し、Navier-Stokes方程式との違いを説明できる。		Eulerの運動方程式の成り立ちについて理解する。		Eulerの運動方程式の成り立ちについて理解できない。	
評価項目(エ)	Navier-Stokes方程式を導くことができ、その過程を説明できる。		Navier-Stokes方程式を導くことができる。		Navier-Stokes方程式を導くことができない。	
評価項目(オ)	渦度の意味、渦なしと渦ありの流れの差異を説明できる。		渦度の意味、渦なしと渦ありの流れの差異を理解する。		渦度の意味、渦なしと渦ありの流れの差異を理解できない。	
評価項目(カ)	渦度方程式を導くことができ、説明できる。		渦度方程式を導くことができる。		渦度方程式を導くことができない。	
評価項目(キ)	速度ポテンシャルを用いて連続の方程式と運動方程式を考え、拡張されたベルヌーイの式を説明できる。		速度ポテンシャルを用いて連続の方程式と運動方程式を考え、拡張されたベルヌーイの式を理解できる。		速度ポテンシャルを用いて連続の方程式と運動方程式を考え、拡張されたベルヌーイの式を理解できない。	
評価項目(ク)	Navier-Stokes方程式を用いる円管層流の理論解を説明できる。		Navier-Stokes方程式を用いる円管層流の理論解を理解する。		Navier-Stokes方程式を用いる円管層流の理論解を理解できない。	
評価項目(ケ)	平均流の挙動を記述する基礎方程式の導出方法とレイノルズ応力の意味を理解し、説明できる。		平均流の挙動を記述する基礎方程式の導出方法とレイノルズ応力の意味を理解する。		平均流の挙動を記述する基礎方程式の導出方法とレイノルズ応力の意味を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B1 数学、自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力						
教育方法等						
概要	本科の水理学では、主に水を取り扱う上で重要な基本的物理現象等を取り扱った。ただし、その講義の際には理解のしやすさを重視し、水理学の背景にある流体力学的な部分について数学的表現を用いた説明がほぼ省かれた形でなされている。そこで専攻科における本講義では、本科にて学習した水理学の知識を基に、流体力学的な部分についての内容を中心に数学的な表現を交えながら講義を進める。					
授業の進め方・方法	適宜講義プリントを配布する。ゼミ形式の講義も一部実施する。本科で扱った水理学よりもより高度な数学的表現を交えながら流体力学に関する講義を実施するため、数学や物理学に関してしっかりと復習しておくこと。					
注意点	本科の水理学で取り扱った全ての内容を習得しているものとして講義を進める。(自学自習内容)継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。適宜、授業内容に関する課題(レポート)を課すので、決められた期日までに提出すること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
規制技術に含まれるものはない						
授業の属性・履修上の区分						
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容	週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	流体モデルとは：連続体仮説、流体の性質と変形、可視化手法 (自学自習内容：様々な流体の特徴について調べる。)	流体の性質、流れの可視化手法について説明できる。		
		2週	流体モデルとは：連続体仮説、流体の性質と変形、可視化手法 (自学自習内容：流れの可視化手法についてまとめる。)	流体の性質、流れの可視化手法について説明できる。		
		3週	質量保存則：非圧縮性流体、連続の方程式 (自学自習内容：質量保存則を導出できるよう復習する。)	流れ場における一般的な質量保存則を理解する。		

		4週	質量保存則：非圧縮性流体、連続の方程式 (自学自習内容：質量保存則を用いた演習に取り組む。)	流れ場における一般的な質量保存則を理解する。
		5週	Eulerの運動方程式、運動量方程式 (自学自習内容：Eulerの運動方程式における移流項を導出できるようにする。)	Eulerの運動方程式の成り立ちについて理解する。
		6週	Eulerの運動方程式、運動量方程式 (自学自習内容：オイラーの運動方程式における圧力項の意味について調べる。)	Eulerの運動方程式の成り立ちについて理解する。
		7週	粘性流体の力学：非圧縮粘性流体の運動の基礎方程式 (Navier-Stokes方程式) (自学自習内容：Navier-Stokes方程式の導出について復習する。)	Navier-Stokes方程式を導くことができる。
		8週	粘性流体の力学：非圧縮粘性流体の運動の基礎方程式 (Navier-Stokes方程式) (自学自習内容：Navier-Stokes方程式を用いた数値解析手法について調べる。)	Navier-Stokes方程式を導くことができる。
	4thQ	9週	循環と渦：循環、渦、渦度方程式 (自学自習内容：流体の変形と回転運動を式で表せるよう復習する。)	渦度の意味、渦なしと渦ありの流れの差異を理解する。渦度方程式を導くことができる。
		10週	循環と渦：循環、渦、渦度方程式 (自学自習内容：渦度方程式の導出について復習する。)	渦度の意味、渦なしと渦ありの流れの差異を理解する。渦度方程式を導くことができる。
		11週	エネルギー保存則：ポテンシャル流と一般化されたベルヌーイの定理 (自学自習内容：ポテンシャル流の演習に取り組む。)	速度ポテンシャルを用いて連続の方程式と運動方程式を考え、拡張されたベルヌーイの式を説明できる。
		12週	エネルギー保存則：ポテンシャル流と一般化されたベルヌーイの定理 (自学自習内容：圧力方程式の導出について復習する。)	速度ポテンシャルを用いて連続の方程式と運動方程式を考え、拡張されたベルヌーイの式を説明できる。
		13週	層流と乱流：レイノルズ数の物理的意味とスケール、円管層流の理論解 (自学自習内容：Navier-Stokes方程式を用いる円管層流の理論解について復習する。)	Navier-Stokes方程式を用いる円管層流の理論解を理解する。
		14週	壁乱流：レイノルズ応力、レイノルズ方程式 (自学自習内容：レイノルズ方程式の導出について復習する。)	平均流の挙動を記述する基礎方程式の導出方法とレイノルズ応力の意味を理解する。
		15週	水工学についての総まとめ (自学自習内容：水工学で学んだ内容に関する演習に取り組む。)	これまでに学んだ水工学の内容について再確認し、理解を深めることができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	小テスト	合計
総合評価割合		50	20	30	100
専門的能力		50	20	30	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	高機能コンクリート	
科目基礎情報							
科目番号	94017			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない／適宜プリントを配布する						
担当教員	河野 伊知郎						
到達目標							
(ア)コンクリートの高性能化への基本原則を理解する。 (イ)コンクリートの高性能化のメカニズムと混和材料の役割を理解する。 (ウ)高強度化について理解し、高強度コンクリートを製造するための手法と対策を立てることができる。 (エ)高流動化について理解し、高流動コンクリートを製造するための手法と対策を立てることができる。 (オ)高耐久化について理解し、高耐久コンクリートを製造するための手法と対策を立てることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1		コンクリートの高性能化への基本原則を理解し、説明できる。		コンクリートの高性能化への基本原則を理解できる。		コンクリートの高性能化への基本原則を理解できない。	
評価項目2		コンクリートの高性能化のメカニズムと混和材料の役割を理解し、説明できる。		コンクリートの高性能化のメカニズムと混和材料の役割を理解できる。		コンクリートの高性能化のメカニズムと混和材料の役割を理解できない。	
評価項目3		高機能化について理解し、高機能コンクリートを製造するための手法と対策を立てることができる。		高機能化の手法と対策について理解できる。		高機能化の手法と対策について理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要	近年、コンクリートの需要のニーズが多様化し、コンクリートにも高い付加価値が要求されるようになってきた。最近では、高強度、高耐久性、高靱性などの高い性能が要求されるのに加え、環境負荷の低減などの観点から新しい機能が求められている。従って、本講義では、このような要求に応えるべく開発されたいくつかのコンクリートを紹介するとともに、コンクリートの強度、施工性、耐久性等の向上策、及びその機構について学ぼうとするものである。						
授業の進め方・方法	適宜講義プリントを配布する。種々のセメント、混和材、混和剤を用いた実験も実施する。						
注意点	関数電卓を毎時間持参すること。（自学自習内容）継続的に授業内容の予習・復習を行うこと。適宜、授業内容に関する課題（レポート）を課すので、決められた期日までに提出すること。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	セメントおよびコンクリートの基礎的性状 （自学自習内容：セメントおよびコンクリートの基礎的性状を復習する。）		セメントおよびコンクリートの基礎的性状を理解する		
		2週	コンクリート構造物の現状（長寿命化、高耐久化、維持管理コストやライフサイクルコストの低減） （自学自習内容：コンクリート構造物の現状を復習する。）		コンクリート構造物の現状を理解する		
		3週	コンクリートの高性能化への基本原則：構成要素と性能、セメントマトリックス相、分散粒子、境界相、空隙構造 （自学自習内容：コンクリートの構成要素と性能を復習する。）		構成要素と性能、セメントマトリックス相、分散粒子、境界相、空隙構造を理解する		
		4週	コンクリートの高性能化への基本原則：構成要素と性能、セメントマトリックス相、分散粒子、境界相、空隙構造 （自学自習内容：コンクリートのセメントマトリックス相、分散粒子、境界相を復習する。）		構成要素と性能、セメントマトリックス相、分散粒子、境界相、空隙構造を理解する		
		5週	コンクリートの高性能化への基本原則：構成要素と性能、セメントマトリックス相、分散粒子、境界相、空隙構造 （自学自習内容：コンクリートの空隙構造およびその特性について復習する。）		構成要素と性能、セメントマトリックス相、分散粒子、境界相、空隙構造を理解する		
		6週	種々のセメント、混和材、混和剤を用いた実験 （自学自習内容：種々のセメント、混和材、混和剤を用いたモルタル、コンクリートの性状を復習する。）		種々のセメント、混和材、混和剤を用いたモルタル、コンクリートの性状を理解する		
		7週	コンクリートの高性能化のメカニズムと混和材料の役割：減水効果による高性能化、潜在水硬性、高密度化、体積変化制御、流動性向上 （自学自習内容：減水効果による高性能化、潜在水硬性、高密度化等について復習する。）		減水効果による高性能化、減水効果、潜在水硬性、高密度化、体積変化制御、流動性向上を理解する		

4thQ	8週	コンクリートの高性能化のメカニズムと混和材料の役割：減水効果による高性能化、減水効果、潜在水硬性、高密度化、体積変化制御、流動性向上 (自学自習内容：体積変化制御、流動性向上等について復習する。)	減水効果による高性能化、減水効果、潜在水硬性、高密度化、体積変化制御、流動性向上を理解する
	9週	高強度化：高強度化へのアプローチ、減水による高強度化、高密度化による高強度化、高強度コンクリートの力学的特性 (自学自習内容：高強度化へのアプローチ、減水による高強度化等について復習する。)	高強度化へのアプローチ、減水による高強度化、高密度化による高強度化、高強度コンクリートの力学的特性を理解する
	10週	高強度化：高強度化へのアプローチ、減水による高強度化、高密度化による高強度化、高強度コンクリートの力学的特性 (自学自習内容：高密度化による高強度化、高強度コンクリートの力学的特性等について復習する。)	高強度化へのアプローチ、減水による高強度化、高密度化による高強度化、高強度コンクリートの力学的特性を理解する
	11週	高流動化：高流動化へのアプローチ、高流動コンクリートの種類と特徴、高流動コンクリートの流動特性評価 (自学自習内容：高流動化へのアプローチ等について復習する。)	高流動化へのアプローチ、高流動コンクリートの種類と特徴、高流動コンクリートの流動特性評価を理解する
	12週	高流動化：高流動化へのアプローチ、高流動コンクリートの種類と特徴、高流動コンクリートの流動特性評価 (自学自習内容：高流動コンクリートの種類と特徴、高流動コンクリートの流動特性評価等について復習する。)	高流動化へのアプローチ、高流動コンクリートの種類と特徴、高流動コンクリートの流動特性評価を理解する
	13週	高耐久化：塩害、中性化、透気性、アルカリ骨材反応、ひび割れ制御による高耐久化 (自学自習内容：コンクリートの高耐久化について復習する。)	塩害、中性化、透気性、アルカリ骨材反応、ひび割れ制御による高耐久化を理解する
	14週	高耐久化：塩害、中性化、透気性、アルカリ骨材反応、ひび割れ制御による高耐久化 (自学自習内容：コンクリートの高耐久化について復習する。)	塩害、中性化、透気性、アルカリ骨材反応、ひび割れ制御による高耐久化を理解する
	15週	コンクリートの高性能化のまとめと展望 (自学自習内容：コンクリートの高性能化について復習する。)	コンクリートの高性能化について理解し、展望を述べることができる
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	小テスト	課題	合計
総合評価割合		50	30	20	100
専門的能力		50	30	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	水質工学	
科目基礎情報							
科目番号	94020			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない／資料は適宜オンラインにて配布する						
担当教員	松本 嘉孝						
到達目標							
(ア)水環境における法規制を体系的に理解し、水質項目を説明できる (イ)水環境における化学・物理・生物的過程を列挙し、それら内容を説明できる (ウ)水環境における化学・物理・生物的過程を統合化し説明できる (エ)水処理施設における水質制御を理解し、計算できる (オ)陸水域における物質の動態を定性的、定量的に理解し説明できる (カ)水環境における素過程を考慮した上で、調査計画の立案、環境保全・修復方法の提案を行うことができる							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
到達目標 (ア)	水環境における法規制を体系的に理解し、水質項目を説明できる		水環境における法規制を理解し、水質項目を説明できる		水環境における法規制が理解できず、水質項目が説明できない		
到達目標 (イ)	水環境における化学・物理・生物的過程を列挙し、それら内容を説明できる		水環境における化学・物理・生物的過程を列挙することができる		水環境における化学・物理・生物的過程が列挙することができない		
到達目標 (ウ)	水環境における化学・物理・生物的過程を統合化し説明できる		水環境における化学・物理・生物的過程を説明できる		水環境における化学・物理・生物的過程が説明できない		
到達目標 (エ)	水処理施設における水質制御を理解し、オープンクエスチョンを計算できる		水処理施設における水質制御を理解し、計算できる		水処理施設における水質制御が理解できず、計算できない		
到達目標 (オ)	陸水域における物質の動態を定性的、定量的に理解し説明できる		陸水域における物質の動態を定性的、定量的に理解している		陸水域における物質の動態を定性的、定量的に理解していない		
到達目標 (カ)	水環境における素過程を考慮した上で、調査計画の立案、環境保全・修復方法の提案を行うことができる		水環境における調査計画の立案、環境保全・修復方法の提案を行うことができる		水環境における調査計画の立案、環境保全・修復方法の提案を行うことができない		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要	河川や湖沼もしくは水処理施設などにおける水環境を工学的に対処するためには、物質の動態を科学的に把握し評価すること、水処理法や対策法などを技術的に検討し実施する必要がある。具体的に物質動態には、生物地球科学や物理的な物質移動などの分野が、水処理には生物化学技術や処理計画などの分野が用いられるため、様々な学問分野をクロスオーバーした知見が求められる。						
授業の進め方・方法	本講義では、本科で学んだ科目群の高度化および統合化を行うと共に、いくつかの事象を参考としながらこれら知識の応用について講義を行う。さらに、環境分野における計画や対策を考えるうえでベースとなる学問についての講義も行い、総合環境戦略の立てられる技術者となるべく素養を教授する。						
注意点							
選択必修の種別・旧カリ科目名							
規制技術に含まれるものはない							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	水環境に関する法規制、水質項目(自学自習内容)授業後に必ず〃復習し、学習内容の理解を深めること。		(ア)水環境における法規制を体系的に理解し、水質項目を説明できる		
		2週	水環境に関する法規制、水質項目(自学自習内容)授業後に必ず〃復習し、学習内容の理解を深めること。		(ア)水環境における法規制を体系的に理解し、水質項目を説明できる		
		3週	水環境における化学的過程：化学量論、化学反応速度、酸化還元、化学平衡(自学自習内容)授業時に渡す練習問題を解くこと。		(イ)水環境における化学・物理・生物的過程を列挙し、それら内容を説明できる		
		4週	水環境における化学的過程：化学量論、化学反応速度、酸化還元、化学平衡(自学自習内容)授業時に渡す練習問題を解くこと。		(イ)水環境における化学・物理・生物的過程を列挙し、それら内容を説明できる		
		5週	水環境における化学的過程：化学量論、化学反応速度、酸化還元、化学平衡(自学自習内容)授業後に必ず〃復習し、学習内容の理解を深めること。		(ウ)水環境における化学・物理・生物的過程を統合化し説明できる		
		6週	水環境における物理的過程：フラックス、拡散と分散、吸着(自学自習内容)授業後に必ず〃復習し、学習内容の理解を深めること。		(イ)水環境における化学・物理・生物的過程を列挙し、それら内容を説明できる		

		7週	水環境における物理的過程：フラックス，拡散と分散， 吸着 (自学自習内容)授業時に渡す練習問題を解くこと。	(イ)水環境における化学・物理・生物的過程を列挙し， それら内容を説明できる (ウ)水環境における化学・物理・生物的過程を統合化し説明できる
		8週	水環境における物理的過程：フラックス，拡散と分散， 吸着 (自学自習内容)授業時に渡す練習問題を解くこと。	(イ)水環境における化学・物理・生物的過程を列挙し， それら内容を説明できる
	4thQ	9週	水環境における生物的過程：成長と増殖 (自学自習内容)授業後に必ず〃復習し，学習内容の理解を深めること。	(ウ)水環境における化学・物理・生物的過程を統合化し説明できる
		10週	水処理施設での水質制御法：物理化学的プロセス，生物学的プロセス (自学自習内容)授業時に渡す練習問題を解くこと。	(エ)水処理施設における水質制御を理解し，計算できる
		11週	水処理施設での水質制御法：物理化学的プロセス，生物学的プロセス (自学自習内容)授業時に渡す練習問題を解くこと。	(エ)水処理施設における水質制御を理解し，計算できる
		12週	陸水域での物質動態解析法：負荷発生機構，水質モデル (自学自習内容)授業後に必ず〃復習し，学習内容の理解を深めること。	(オ)陸水域における物質の動態を定性的，定量的に理解し説明できる
		13週	陸水域での物質動態解析法：負荷発生機構，水質モデル (自学自習内容)授業時に渡す練習問題を解くこと。	(オ)陸水域における物質の動態を定性的，定量的に理解し説明できる
		14週	計画と対策：調査の計画，環境保全・修復方法 (自学自習内容)授業後に必ず〃復習し，学習内容の理解を深めること。	(カ)水環境における素過程を考慮した上で，調査計画の立案，環境保全・修復方法の提案を行うことができる
		15週	計画と対策：調査の計画，環境保全・修復方法 (自学自習内容)授業後に必ず〃復習し，学習内容の理解を深めること。	(カ)水環境における素過程を考慮した上で，調査計画の立案，環境保全・修復方法の提案を行うことができる
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	中間試験	合計	
総合評価割合		60	40	100	
専門的能力		60	40	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	応用地盤工学	
科目基礎情報							
科目番号	94022			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	適宜, 資料を配布する						
担当教員	小林 睦						
到達目標							
(ア)地盤構造物の性能設計について説明できる。 (イ)土質調査について理解している。 (ウ)基礎の設計原理を理解し, 設計手法を理解している。 (エ)抗土圧構造物の構造を理解し, 設計手法を理解している。 (オ)補強土工法の原理を理解し, 設計手法を理解している。 (カ)土のせん断挙動を理解している。 (キ)土の動的挙動を理解し, 液状化対策工法を説明できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	地盤構造物の性能設計について説明できる。			地盤構造物の性能設計について理解している。		地盤構造物の性能設計について理解できない。	
評価項目(イ)	土質調査について説明できる。			土質調査について理解している。		土質調査について理解していない。	
評価項目(ウ)	基礎の設計原理を理解し, 設計手法をできる。			基礎の設計原理を理解し, 設計手法を理解している。		基礎の設計原理を理解していない。	
評価項目(エ)	抗土圧構造物の構造を理解し, 設計手法を説明できる。			抗土圧構造物の構造を理解し, 設計手法を理解している。		抗土圧構造物の構造を理解できていない。	
評価項目(オ)	補強土工法の原理を理解し, 設計手法を説明できる。			補強土工法の原理を理解し, 設計手法を理解している。		補強土工法の原理を理解できず, 設計手法を理解していない。	
評価項目(カ)	土のせん断挙動を説明できる。			土のせん断挙動を理解している。		土のせん断挙動を理解していない。	
評価項目(キ)	土の動的挙動を理解し, 液状化対策工法を説明できる。			土の動的挙動を理解し, 液状化対策工法を理解している。		土の動的挙動を理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要	科目概要: 社会基盤の整備にあたっては, 土構造物が広範にわたって関与してくる。土質力学では, 土の基本的な性質および挙動について学んできた。本講義では, それらが実社会でどのように解釈され, 土構造物の設計手法に適用されているかを学んでいく。まずは, 地盤調査法を学び, 結果の解釈と設計への反映プロセスについて紹介していく。それらを踏まえて, 基礎および土構造物の原理や考え方, 設計方法を学び, 適切な工法を選定する能力を養成していく。						
授業の進め方・方法	授業では, 事前学習内容を受講生同士で共有しあうことから始め, その後は講義形式で進めていく。この科目は, 土工の設計・施工を担当していた教員が, 土構造物の設計に関する基本的な考え方および近年の動向について, 授業を行うものである。						
注意点	この講義は土質力学Ⅰ, Ⅱを修得していることを前提としている。関数電卓を毎時間持参すること。 Microsoft365を活用した授業を行うので, ノートPCあるいはタブレット等を持参することが望ましい。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標		
		1週	地盤工学における性能設計 (課題: 性能設計の課題)		地盤工学における性能設計について理解している		
		2週	土質調査: 調査一般, N値の活用法 (課題: 地盤調査の諸問題)		調査一般, N値の活用法について理解している		
		3週	基礎構造一般: 基礎の形式, テルツァギの支持力公式 (復習: 支持力公式の導出)		基礎の形式, テルツァギの支持力公式について理解している		
		4週	直接基礎, 杭基礎: 直接基礎の設計法, 杭基礎の設計法 (課題: 浅い基礎の支持力)		直接基礎の設計法, 杭基礎の設計法について理解している		
		5週	直接基礎, 杭基礎: 直接基礎の設計法, 杭基礎の設計法 (課題: 杭基礎の支持力)		直接基礎の設計法, 杭基礎の設計法について理解している		
		6週	直接基礎, 杭基礎: 直接基礎の設計法, 杭基礎の設計法 (復習: 基礎の支持力)		直接基礎の設計法, 杭基礎の設計法について理解している		
		7週	抗土圧構造物: 擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法 (復習: 試行くさび法)		擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法について理解している		
	8週	抗土圧構造物: 擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法 (課題: 試行くさび法)		擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法について理解している			
	2ndQ	9週	抗土圧構造物: 擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法 (課題: 試行くさび法)		擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法について理解している		
		10週	抗土圧構造物: 擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法 (予習: 補強土構造物)		擁壁の構造, 試行くさび法, 擁壁の設計法について理解している		
11週		補強土構造物: 補強土工法, 補強土擁壁の設計法 (復習: 補強土構造物の設計)		補強土工法, 補強土擁壁の設計法について理解している			

		12週	補強土構造物：補強土工法，補強土擁壁の設計法（予習：土の強度特性）	補強土工法，補強土擁壁の設計法について理解している
		13週	土のせん断特性：土のせん断挙動（予習：土の動的挙動）	土のせん断挙動について理解している
		14週	液状化対策工：土の動的挙動，液状化対策（復習：土の動的挙動）	土の動的挙動，液状化対策について理解している
		15週	液状化対策工：土の動的挙動，液状化対策（復習：これまでのまとめ）	土の動的挙動，液状化対策について理解している
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
----	----	------	-----------	-------	-----

評価割合

	定期試験	課題	中間試験	合計
総合評価割合	50	20	30	100
専門的能力	50	20	30	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建築環境工学論
科目基礎情報						
科目番号	94023			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない／適宜プリントを配布する。					
担当教員	森上 伸也					
到達目標						
(ア)主な地球環境問題を理解し、説明できる。 (イ)環境共生の考え方を理解し、説明できる。 (ウ)建築とエネルギーの関係を理解し、説明できる。 (エ)環境と健康な人間生活の関係を理解し、説明できる。 (オ)建築物の環境性能評価の考え方を理解し、説明できる。 (カ)環境政策に対する世界の動きを理解し、説明できる。 (キ)工学的に適切な報告書を作成でき、プレゼンテーションを行える。						
ルーブリック						
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)	
評価項目(ア)	主な地球環境問題を理解し、世界の現状（事例など）を説明できる		主な地球環境問題を理解し、説明できる		主な地球環境問題の理解、説明ができない	
評価項目(イ)	環境共生の考え方を理解し、その建築的な対策について説明できる		環境共生の考え方を理解し、説明できる		環境共生の考え方の理解、説明ができない	
評価項目(ウ)	建築とエネルギーの関係を理解し、再生可能エネルギー、エネルギーマネジメントについて説明できる		建築とエネルギーの関係を理解し、説明できる		建築とエネルギーの関係の理解、説明ができない	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力						
教育方法等						
概要	建築の分野では、比較的近年まで快適性の追求に主眼をおいて発展してきた。しかし、社会のIT化とともに、我々の発展の陰で拡大していた遠隔地の多くの地球環境問題が身近に可視化されて届くようになり、その関連性の重要性を理解するに至った。今や建築を学ぶ者にとって、環境への負荷に関する理解は不可欠であり、地球環境を踏まえた視点で建築を捉えなくてはならない。本科目では、地域環境及び地球環境に対する最新の動向に関する基礎知識を学ぶとともに、建築計画や建築設備に関する最先端の知見や技術に対する知識を修得する。					
授業の進め方・方法	演習課題を通して、環境政策等の取組や活動を調査し、問題点や成果などを討論する。					
注意点	(自学自習内容) 授業内容に関連・該当する項目を毎回文献等で調べ、決められた期日までにまとめて事例研究課題として提出すると共に、発表を求める。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
規制技術に含まれるものはない						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	建築と地球環境：地球環境問題、都市環境問題など（課題1：EPIランキング上位国の環境問題と環境政策）		地球規模の環境問題などを説明できる	
		2週	都市環境問題：ヒートアイランド、大気環境、都市災害など（課題1：EPIランキング上位国の環境問題と環境政策）		過去に生じた公害や自然災害と環境要因との関係などについて説明できる	
		3週	省エネルギー：エネルギー政策、次世代エネルギーなど（課題1：EPIランキング上位国の環境問題と環境政策）		自然再生可能エネルギーの特徴と政策などについて説明できる	
		4週	水資源：利水、水質、土壌、景観など（課題1：EPIランキング上位国の環境問題と環境政策）		水の物性、水の循環、水質汚濁を説明できる	
		5週	環境共生：風土建築、パッシブデザイン、エコロジカルデザイン、緑化など（課題1：EPIランキング上位国の環境問題と環境政策）		エネルギー削減や環境保全に関する建築的手法を説明することができる	
		6週	環境先進国の環境政策等の事例研究など（課題1：EPIランキング上位国の環境問題と環境政策）		環境政策の現状（事例など）を説明し、評価できる	
		7週	環境先進国の環境政策等の事例研究など（課題2：巨大新興国の環境問題と環境政策）		環境政策の現状（事例など）を説明し、評価できる	
		8週	健康環境：馴化、バリアフリー、ユニバーサルデザインなど（課題2：巨大新興国の環境問題と環境政策）		環境と人の健康との関わり及び関連政策を説明できる	
	2ndQ	9週	循環型社会：廃棄物処理、リサイクルなど（課題2：巨大新興国の環境問題と環境政策）		廃棄物の発生源と現状及び対策（施策、法規等）について説明できる	
		10週	環境先進国の環境政策等の事例研究など（課題2：巨大新興国の環境問題と環境政策）		環境政策の現状（事例など）を説明し、評価できる	
		11週	環境先進国の環境政策等の事例研究など（課題3：近年注目の環境関連政策と課題）		環境政策の現状（事例など）を説明し、評価できる	

	12週	循環型社会：サステナブル建築、ゼロエミッションなど（課題3：近年注目の環境関連政策と課題）	廃棄物の減量化・再資源化について説明できる
	13週	環境性能評価：LCA、CASBEE、GBOなど（課題3：近年注目の環境関連政策と課題）	環境影響評価の指標や目的・活用方法を説明できる
	14週	環境先進国の環境政策等の事例研究など（課題3：近年注目の環境関連政策と課題）	環境政策の現状（事例など）を説明し、評価できる
	15週	環境先進国の環境政策等の事例研究など	環境政策の現状（事例など）を説明し、評価できる
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	課題	合計	
総合評価割合		40	60	100	
専門的能力		40	60	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	ファシリティマネジメント	
科目基礎情報							
科目番号	94026			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	「ファシリティマネジメントの実際－施設を活かす総合戦略」(丸善) / 「ファシリティマネジメントガイドブック」(日刊工業新聞社)、適宜資料等を閲覧・配布						
担当教員	竹下 純治						
到達目標							
(ア) FMの概要と目的について理解している。 (イ) FMに関する主要な用語とその内容に関する知識を有している。 (ウ) 建築計画とFMとの関係について理解している。 (エ) 施設評価の手法について理解し、実践的知識を身につけている。 (オ) 作成したレポートの内容は、密度の高い考察に基づくものであり、発表は的確に情報を伝えるものである。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準の到達レベルの目安(可)		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	FMの概要と目的について正しく理解している。			FMの概要と目的について理解している。		FMの概要と目的について理解していない。	
評価項目(イ)	FMに関する主要な用語とその内容に関する知識を十分に有している。			FMに関する主要な用語とその内容に関する知識を有している。		FMに関する主要な用語とその内容に関する知識を有していない。	
評価項目(ウ)	建築計画とFMとの関係について正しく理解している。			建築計画とFMとの関係について理解している。		建築計画とFMとの関係について理解していない。	
評価項目(エ)	施設評価の手法について理解し、実践的知識を十分に身につけている。			施設評価の手法について理解し、実践的知識を身につけている。		施設評価の手法について理解し、実践的知識を身につけていない。	
評価項目(オ)	作成したレポートの内容は、密度の高い考察に基づくものであり、発表は的確に情報を伝えるものである。			作成したレポートの内容は、考察に基づくものであり、発表は必要な情報を伝えるものである。		作成したレポートの内容は、考察に基づくものではなく、発表は必要な情報を伝えるものではない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要	この科目は企業で建築設計を担当していた教員が、その経験を活かし、建築物の施設のマネジメントや評価方法等について演習形式で授業を行うものである。ファシリティマネジメント(以下FM)の概略と役割について学ぶとともに、特に建築系の分野で重要な役割を担う施設評価と施設管理のFMについて学ぶ。また、FMに求められる施設評価方法について具体的事例を参考にして理解するとともに、分析手法を用いてシミュレーション(分析レポート作成)を行い、実践的知識と技術を習得する。さらに、情報化時代のFMについて導入施設あるいは手法の事例をとりあげ、今後のFMの動向、社会のニーズへの対応について議論し検証する。						
授業の進め方・方法	基本的に10週目までは建築計画分野のFMに関する基本的知識や用語、手法や事例等を学ぶ。 11週目以降は実際の建物を選定し、POE手法を用いてアンケートを作成し調査を実施するとともに、結果を分析しレポート作成と発表を行う。						
注意点	(自学自習内容) 授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で予め調べてくること。 (自学自習内容) 授業後に必ず復習し、学習内容の理解を深めること。 (自学自習内容) 課題レポートについて資料を配布し説明する。期日までに調査・執筆し提出すること。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	ガイダンス(授業の概要、スケジュール、課題について説明) (復習: FMについて文献を調べる)		上記(ア)		
		2週	FMの基本概念(復習: FMとは何かを予測する)		上記(ア)(イ)		
		3週	FMの基本概念(復習: FMの定義を理解する)		上記(ア)(イ)		
		4週	経営戦略とFM(復習: 授業内容を復習する)		上記(ウ)		
		5週	FMの機能と手法(復習: 面積算定法について理解する)		上記(ウ)		
		6週	FMの機能と手法(復習: スペースプランニングの手法を理解する)		上記(ウ)		
		7週	FMの機能と手法(課題: aの実測と計算を理解する)		上記(ウ)		
		8週	FMの機能と手法(復習: オフィススタンダードを理解し事例を調べる)		上記(エ)		
	4thQ	9週	FMの機能と手法(復習: FM導入の事例を確認する)		上記(エ)		
		10週	施設評価とFM(復習: 施設の評価次元について確認する)		上記(エ)(オ)		
		11週	施設評価とFM(課題: 復習: POE分析について手法を理解する)		上記(エ)(オ)		

	12週	施設評価とF M（課題：POE分析-調査対象選定、アンケート項目作成）	上記（工）（オ）
	13週	施設評価とF M（課題：POE分析-調査実施、データベース作成、分析、レポート作成、プレゼンテーション作成）	上記（工）（オ）
	14週	施設評価とF M（課題：POE分析-調査実施、データベース作成、分析、レポート作成、プレゼンテーション作成）	上記（工）（オ）
	15週	施設評価とF M（課題：POE分析-レポート作成、プレゼンテーション作成）	上記（工）（オ）
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	レポート	レポート発表	合計	
総合評価割合	60	30	10	100	
専門的能力	60	30	10	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	環境都市 C A D演習	
科目基礎情報							
科目番号	94027			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	前期			週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない。／プリント配布、適宜資料等を閲覧						
担当教員	河野 伊知郎						
到達目標							
(ア) A u t o C A Dで効率的に作図するための方法を理解し、見やすいレイアウト設定が行うことができる。 (イ) A u t o C A Dの機能を生かした効率的な操作を行なうことができる。 (ウ) 礎的な建設構造物の一般図を A u t o C A Dで作図 (2 D) することができる。 (エ) A u t o C A Dの機能を生かした効率的な操作を行なうことができる。 (オ) C A D利用技術者試験2級程度の技術と知識を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	A u t o C A Dで効率的に作図するためのより高度な方法を理解し、見やすいレイアウト設定が行うことができ、説明できる。			A u t o C A Dで効率的に作図するための方法を理解し、見やすいレイアウト設定が行うことができる。		A u t o C A Dで効率的に作図するための方法を理解し、見やすいレイアウト設定が行うことができない。	
評価項目(イ)	A u t o C A Dの機能を生かしたより高度な効率的な操作を行なうことができ、説明できる。			A u t o C A Dの機能を生かした効率的な操作を行なうことができる。		A u t o C A Dの機能を生かした効率的な操作を行なうことができない。	
評価項目(ウ)	礎的な建設構造物の一般図、配筋図を A u t o C A Dで作図 (2 D) することができ、説明できる。			礎的な建設構造物の一般図、配筋図を A u t o C A Dで作図 (2 D) することができる。		礎的な建設構造物の一般図、配筋図を A u t o C A Dで作図 (2 D) することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B1 数学、自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらに応用する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要	従来は紙で交換されていた製図を電子化することが一般的となり、ネットワークを活用した情報の共有・有効活用を図ることが求められるようになった。手書きの製図からコンピュータを利用した製図の修得が不可欠となり、2次元CADであるAuto CADの基本操作方法を習得し、C A L S仕様による図面の作成を目標とする。設計書を理解し、図面の作成を行う。本科で学んだ基本的操作の確認の後、建設系構造物の一般図、簡単な配筋図、道路平面線形の基礎的2 D図面作成行う。作図対象構造物の詳細設計は他講義に譲るものとし、本演習では既与された寸法、設計断面を扱う。						
授業の進め方・方法	授業の進め方：授業は各自のペースで進める。Auto CADの基礎的取り扱いから順に複雑な手順へと課題に挑む。 授業内容・方法：図面をCAD図面に起こすことを基本とする。簡単は道路断面やU字溝などから、道路線形、道路接続へと課題の難易度を上げる。						
注意点	高専本科でのCAD製図, 設計製図I, 設計製図II, 設計製図IIIの履修を前提とする。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
規制技術に含まれるものはない							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	ガイダンス、CADシステムの概要および機能、コンピュータの基礎知識1 (自学自習内容：CADシステムおよびコンピュータの基礎知識を理解する)		CADおよびコンピュータに関する基礎知識を理解する。		
		2週	コンピュータの基礎知識2、ネットワークの基本 (自学自習内容：コンピュータの基礎知識、ネットワークを理解する)		コンピュータに関する基礎知識およびネットワークを理解する。		
		3週	製図の基本 (製図の基礎知識、製図の表現方法)、図形の基本 (自学自習内容：製図および図形を理解する)		製図および図形の基本を理解する。		
		4週	2D-CADの基本的な操作方法の復習 (自学自習内容：本科で学んだCADの操作を確認する)		CADの基本操作およびレイヤー構造を理解する。		
		5週	作図演習：舗装構成図の作成 (自学自習内容：舗装構成図作成操作を確認する)		見本に従い、各図の配置を考慮しトレースができる。		
		6週	作図演習：道路縁石、排水ブロック作図の作成 (自学自習内容：道路縁石等の作成操作を確認する)		外形線の作図操作を理解する。		
		7週	作図演習：道路平面図の作成 (自学自習内容：道路平面図作成操作を確認する)		見本に従い、CADを操作し配置バランスがよいトレースができる。		
		8週	作図演習：道路予定地の作図 (自学自習内容：道路予定地作図の操作を確認する)		測量図を理解する。		
	2ndQ	9週	作図演習：道路直線部の作図 (自学自習内容：道路直線部作成操作を確認する)		道路の図面を理解する。		
		10週	作図演習：道路曲線部接続図の作成 (自学自習内容：道路曲線図作成操作を確認する)		道路の図面を理解する。		

		11週	作図演習：道路曲線部接続図の作成 (自学自習内容：道路曲線図作成操作を確認する)	総合的な作図操作を理解する。
		12週	作図演習：道路曲線部接続図の作成 (自学自習内容：道路曲線部接続図作成操作を確認する)	総合的な作図操作を理解する。
		13週	作図演習：道路曲線部接続図の作成 (自学自習内容：道路曲線部接続図作成操作を確認する)	総合的な作図操作を理解する。
		14週	C A D利用技術者試験問題による演習と解説 (自学自習内容：CAD専門用語を確認する)	CAD操作、CAD思考の修得確認のため、試験問題により操作確認を理解する。
		15週	C A D利用技術者試験問題による演習と解説 (自学自習内容：作画手順を確認する)	CAD操作、CAD思考の修得確認のため、試験問題により操作確認を理解する。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		小テスト	課題	合計	
総合評価割合		20	80	100	
専門的能力		20	80	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建築学C A D演習	
科目基礎情報							
科目番号		94031		科目区分	専門 / 選択		
授業形態		演習		単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科		建設工学専攻A		対象学年	専1		
開設期		前期		週時間数	2		
教科書/教材		特に指定しない／適宜資料等を閲覧、配布					
担当教員		三島 雅博,前田 博子					
到達目標							
(ア) 2次元及び3次元CADの基本操作技術が身についている。 (イ) 発想、コンセプトが豊かである。 (ウ) 3次元C A Dの特性が発揮された作品である。 (エ) より高度なCADの技術の習得とプレゼンテーションに対する努力が提出物に表現されている。 (オ) プレゼンテーション（作品発表）によって、設計の意図を十分に伝達することが出来、また、質疑に対し適切な説明が出来る。 (カ) 与えられた期間内に課題を作成する計画をたて、提出できる。							
ルーブリック							
		最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)	
評価項目(ア)		2次元及び3次元CADの基本操作技術が身についている。		2次元及び3次元CADの基本操作技術がおおよそ身についている。		2次元及び3次元CADの基本操作技術が身についていない。	
評価項目(イ)		発想、コンセプトが豊かである。		発想、コンセプトが形成できる。		発想、コンセプトが形成できない。	
評価項目(ウ)		3次元C A Dの特性が発揮された作品である。		3次元C A Dの特性がおおよそ発揮された作品である。		3次元C A Dの特性が作品に発揮されていない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A 社会の変化・要請を捉えて、問題を分析・抽出し、様々な条件の下、専門知識・技術を用いて、問題を解決するもしくは新たな提案を発する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 C2 図面判読能力および、設計意図・内容を十分に伝達できる説明力とプレゼンテーション力（記述・作図技術や模型製作技術）、討議能力を修得する。 学習・教育到達度目標 D1 日本語により論理的な記述、口頭発表、討議等ができる。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 JABEE g 自主的、継続的に学習する能力 JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ② 基礎学力 本校教育目標 ③ 問題解決能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力							
教育方法等							
概要		3次元CADの操作技術を習得し、建築設計における高度な作図・プレゼンテーション技術を身につける事を目標とする。課題は前後半の2課題とし、いずれも全国レベルの設計コンペティションを課題テーマとする。最終的にC A Dによるドローイング・プレゼンテーションを作成する。基本的な操作・作図にとどまらず、高度な表現技術の習得への試みを求める。					
授業の進め方・方法							
注意点		3次元C A Dソフトの基本的操作を習得していることが望ましい。毎週の自宅でのエスキース作業が求められる。					
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	第1課題ガイダンス：課題説明（課題意図、敷地、構造規模、提出物、予定）。 （自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		2週	設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表し、意見交換。 （自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		3週	設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表し、意見交換。 （自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		4週	設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表し、意見交換。 （自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		5週	3次元データ入力・チェック （自学自習：図面作成）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		6週	3次元データ入力・チェック （自学自習：図面作成）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		7週	3次元データ入力・チェック （自学自習：図面作成）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		8週	講評会：各自で設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表、学生からの質疑を行う。 （自学自習：プレゼンテーション作成）		上記（ア）（イ）（ウ）		

	2ndQ	9週	第2 課題ガイダンス：課題説明（課題意図、敷地、構造規模、提出物、予定）。 （自学自習：エスキース）	上記（ア）（イ）（ウ）
		10週	設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表し、意見交換。 （自学自習：エスキース）	上記（ア）（イ）（ウ）
		11週	設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表し、意見交換。 （自学自習：エスキース）	上記（ア）（イ）（ウ）
		12週	3次元データ入力・チェック （自学自習：図面作成）	上記（ア）（イ）（ウ）
		13週	3次元データ入力・チェック （自学自習：図面作成）	上記（ア）（イ）（ウ）
		14週	3次元データ入力・チェック （自学自習：図面作成）	上記（ア）（イ）（ウ）
		15週	講評会：各自で設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表、学生からの質疑を行う。 （自学自習：プレゼンテーション作成）	上記（ア）（イ）（ウ）
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
専門的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建築学設計演習	
科目基礎情報							
科目番号	94032			科目区分	専門 / 選択		
授業形態	演習			単位の種別と単位数	学修単位: 2		
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1		
開設期	後期			週時間数	2		
教科書/教材	特に指定しない／適宜資料等を閲覧、配布						
担当教員	亀屋 恵三子,新任 教員						
到達目標							
(ア) 既得の知識・イメージにとらわれず、自由に建築空間を発想することができる。 (イ) 調査の上、要求される空間特性や形態的特徴などの条件をおおよそ理解できる。 (ウ) コンセプトに適った、創造的な空間を計画できる。 (エ) 内部空間及び外観に一貫したコンセプトに基づいた表現を与えることができる。 (オ) 正確な図面が作成でき、設計内容に見合った適切な図面表現を作り出すことができる。 (カ) 自らの設計意図を十分に伝達することができ、質疑に対し適切な説明が出来る。 (キ) 様々な諸条件を総合して、美的な空間を創造できる。 (ク) 計画理論・法規制を考慮した上で、与条件に適合した企画を立案できる。 (ケ) 安全・快適性で美的な都市空間を創造できる。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安		
評価項目(ア)	既得の知識・イメージにとらわれず、自由に建築空間を発想することができる。		既得の知識・イメージにとらわれず、建築空間を発想することができる。		既得の知識・イメージにとらわれず、建築空間を発想できない。		
評価項目(イ)	調査の上、要求される空間特性や形態的特徴などの条件をおおよそ理解できる。		調査の上、要求される空間特性や形態的特徴などの条件をある程度理解できる。		調査の上、要求される空間特性や形態的特徴などの条件を理解できない。		
評価項目(ウ)	コンセプトに適った、創造的な空間を計画できる。		コンセプトに適った空間を計画できる。		コンセプトに適った空間を計画できる。		
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 A 社会の変化・要請を捉えて、問題を分析・抽出し、様々な条件の下、専門知識・技術を用いて、問題を解決するもしくは新たな提案を発する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 C2 図面判読能力および、設計意図・内容を十分に伝達できる説明力とプレゼンテーション力（記述・作図技術や模型製作技術）、討議能力を修得する。 学習・教育到達度目標 D1 日本語により論理的な記述、口頭発表、討議等ができる。 JABEE a 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 JABEE g 自主的、継続的に学習する能力 JABEE h 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ② 基礎学力 本校教育目標 ③ 問題解決能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力							
教育方法等							
概要	後学期を通して2課題を行う。一つはその時点で公開されている設計競技を課題として採用する。競技設計を課題とすることにより、テーマに対する調査、コンセプトの検討熟考、既成概念にとらわれない自由な発想と命題に対する解決法の案出、企画内容に対する適切で、かつ、美的にレベルの高い図面制作が求められる。もう一つは、既に習得した都市計画及び建築法規の知識を基にした設計課題とする。各種用途地域における計画の企画立案、プレゼンテーションを行い、快適・安全な都市空間の創造に関する実践的知識を身に付ける。						
授業の進め方・方法							
注意点	提出期限を厳守すること。病気などの特例を除き、期限以降の提出は一切認めない。特例の場合は診断書などを提出すること。						
選択必修の種別・旧カリ科目名							
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	第1 課題ガイダンス：課題説明（課題の意図、計画の要点、日程、注意事項）、全体質疑（自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）		
		2週	エスキース及び表現方法検討：対象物調査、コンセプトの設定、計画、プレゼンテーション検討、スタディ模型作成（自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）		
		3週	エスキース及び表現方法検討：対象物調査、コンセプトの設定、計画、プレゼンテーション検討、スタディ模型作成（自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）		
		4週	エスキース及び表現方法検討：対象物調査、コンセプトの設定、計画、プレゼンテーション検討、スタディ模型作成（自学自習：エスキース）		上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）		

		5週	エスキス及び表現方法検討：対象物調査、コンセプトの設定、計画、プレゼンテーション検討、スタディ模型作成 (自学自習：エスキス)	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）
		6週	プレゼンテーション図面作成・課題提出 (自学自習：図面作成)	上記（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）
		7週	プレゼンテーション図面作成・課題提出 (自学自習：図面作成)	上記（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）
		8週	講評会：各自で設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表、学生からの質疑を行う。 (自学自習：プレゼンテーション作成)	上記（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）
	4thQ	9週	第2課題ガイダンス：課題説明 (自学自習：エスキス)	上記（ア）（イ）（ウ）
		10週	企画立案、エスキス（チェック） (自学自習：エスキス)	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）
		11週	企画立案、エスキス（チェック） (自学自習：エスキス)	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）
		12週	プレゼンテーション図面作成、課題提出 (自学自習：図面作成)	上記（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）
		13週	プレゼンテーション図面作成、課題提出 (自学自習：図面作成)	上記（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）
		14週	プレゼンテーション図面作成、課題提出 (自学自習：図面作成)	上記（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）
		15週	講評会：各自で設計意図・工夫点・プレゼンテーションの意図などを発表、学生からの質疑を行う。 (自学自習：プレゼンテーション作成)	上記（オ）（カ）（キ）（ク）（ケ）
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		課題	課題	合計	
総合評価割合		50	50	100	
専門的能力		50	50	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	国際技術表現	
科目基礎情報							
科目番号		94037		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		講義		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		建設工学専攻A		対象学年		専1	
開設期		後期		週時間数		2	
教科書/教材		適宜オンラインにて資料を配布する。					
担当教員		松本 嘉孝					
到達目標							
(ア)英語で発表する際のポスチャーやボディーランゲージを理解し、適切に表現できる。 (イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。 (ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。 (エ)実験方法と実験結果を英語で説明できる。 (オ)英語で自分の研究の概要が説明できる。 (カ)自分の発表内容への質問に英語で答えることができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
到達目標 (ア)		英語で発表する際のポスチャーやボディーランゲージを理解し、適切かつ有効に表現できる。		英語で発表する際のポスチャーやボディーランゲージを理解し、適切に表現できる。		英語で発表する際のポスチャーやボディーランゲージを理解し、適切に表現できない。	
到達目標 (イ)		英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切かつ有効に表現できる。		英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。		英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できない。	
到達目標 (ウ)		数式、グラフ、表を英語で正確に説明できる。		数式、グラフ、表を英語で説明できる。		数式、グラフ、表を英語で説明できない。	
到達目標 (エ)		実験方法と実験結果を英語で正確に説明できる。		実験方法と実験結果を英語で説明できる。		実験方法と実験結果を英語で説明できない。	
到達目標 (オ)		英語で自分の研究の概要が正確かつスムーズに説明できる。		英語で自分の研究の概要が説明できる。		英語で自分の研究の概要が説明できない。	
到達目標 (カ)		自分の発表内容への質問に英語で正確かつスムーズに答えることができる。		自分の発表内容への質問に英語で答えることができる。		自分の発表内容への質問に英語で答えることができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 D2 語文献などの読解力と基本的な英語コミュニケーション能力を修得する。 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力							
教育方法等							
概要		どのように素晴らしい研究成果をあげても、発信しなければ多くの人々に学術的・技術的な価値を伝えることはできない。また、発信なくしては、その成果は社会に認められず、利用される機会も乏しくなる。これからのエンジニアには、国内のみならず世界に向けて、自らの研究成果、あるいは新技術などを発表する能力が要求される。本授業をとおり、国際会議や学会での英語による研究発表と質疑応答を、流暢ではなくとも、ひととおり行える英語力を養成する。					
授業の進め方・方法		本授業では、専門分野での英語によるコミュニケーション能力を養成することにある。そのため、各自が英語で発言する機会を多く設けると共に、各自の研究内容を英語で発表し、お互いに質問する授業内容とする。					
注意点		課題には英語による発表、質疑応答の評価が含まれる。英語での説明、質問、発表等は、聴者にとって理解可能な程度であり、流暢である必要はない。					
選択必修の種別・旧カリ科目名							
規制技術に含まれるものはない							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	Delivery: Posture, Body Language (自学自習内容)授業後に必ず〃復習し、学習内容の理解を深めること。		(ア)英語で発表する際のポスチャーやボディーランゲージを理解し、適切に表現できる。		
		2週	Delivery: Posture, Body Language (自学自習内容)練習問題の実施		(ア)英語で発表する際のポスチャーやボディーランゲージを理解し、適切に表現できる。		
		3週	Introduction: Elements, Hooks (自学自習内容)練習問題の実施		(イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。		
		4週	Introduction: Elements, Hooks (自学自習内容)英語プレゼンテーションの準備		(イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。		
		5週	Signposting (自学自習内容)英語プレゼンテーションの準備		(イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。		
		6週	中間発表 その1 (自学自習内容)授業後に必ず〃復習し、学習内容の理解を深めること。		(ア)英語で発表する際のポスチャーやボディーランゲージを理解し、適切に表現できる。 (イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。 (オ)英語で自分の研究の概要が説明できる。		
		7週	Visuals: Visuals, Making visuals (自学自習内容)授業後に必ず〃復習し、学習内容の理解を深めること。		(ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。		
		8週	Visuals: Visuals, Making visuals (自学自習内容)練習問題の実施		(ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。		

4thQ	9週	Trends: Trends, Describing change in trend (自学自習内容)授業後に必ず` 復習し, 学習内容の理解を深めること。	(ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。 (エ)実験方法と実験結果を英語で説明できる。
	10週	Trends: Trends, Describing change in trend (自学自習内容)授業後に必ず` 復習し, 学習内容の理解を深めること。英語プレゼンテーションの準備	(ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。 (エ)実験方法と実験結果を英語で説明できる。
	11週	Question policy (自学自習内容)英語プレゼンテーションの準備	(カ)自分の発表内容への質問に英語で答えることができる。
	12週	中間発表 その2 (自学自習内容)授業後に必ず` 復習し, 学習内容の理解を深めること。	(ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。 (エ)実験方法と実験結果を英語で説明できる。 (カ)自分の発表内容への質問に英語で答えることができる。
	13週	全体のスライド作成, 発表練習 (自学自習内容)英語プレゼンテーションの準備	(ア)英語で発表する際のポスターやボディーランゲージを理解し, 適切に表現できる。 (イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。 (ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。 (エ)実験方法と実験結果を英語で説明できる。 (オ)英語で自分の研究の概要が説明できる。 (カ)自分の発表内容への質問に英語で答えることができる。
	14週	全体のスライド作成, 発表練習 (自学自習内容)英語プレゼンテーションの準備	(ア)英語で発表する際のポスターやボディーランゲージを理解し, 適切に表現できる。 (イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。 (ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。 (エ)実験方法と実験結果を英語で説明できる。 (オ)英語で自分の研究の概要が説明できる。 (カ)自分の発表内容への質問に英語で答えることができる。
	15週	最終発表会	(ア)英語で発表する際のポスターやボディーランゲージを理解し, 適切に表現できる。 (イ)英語で発表する際のイントロダクションやサインポストを適切に表現できる。 (ウ)数式、グラフ、表を英語で説明できる。 (エ)実験方法と実験結果を英語で説明できる。 (オ)英語で自分の研究の概要が説明できる。 (カ)自分の発表内容への質問に英語で答えることができる。
	16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		定期試験	最終発表	中間発表	合計
総合評価割合		40	40	20	100
専門的能力		40	40	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建設工学創造実験	
科目基礎情報							
科目番号		94038		科目区分		専門 / 選択	
授業形態		実験		単位の種別と単位数		学修単位: 2	
開設学科		建設工学専攻A		対象学年		専1	
開設期		通年		週時間数		1	
教科書/教材		／プリント等					
担当教員		小林 睦/小笠原 明信					
到達目標							
(ア)与えられた課題を解決するための全体計画および工程を企画・立案し、これを遂行することができる。 (イ)問題点や改善点を抽出し、適当な解決策を提示することができる。 (ウ)課題解決のための実験・実習を独自に企画立案し、必要なデータを抽出することができる。 (エ)課題全体で実施した内容を整理し、分かりやすく報告することができる。							
ルーブリック							
		理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
全体計画の企画、立案		与えられた課題を解決するための全体計画および工程を適切に企画・立案し、これを確実に遂行することができる。		与えられた課題を解決するための全体計画および工程を企画・立案し、遂行することができる		与えられた課題を解決するための全体計画および工程を企画・立案することができない。	
問題点の抽出と解決策の提案		キーとなる問題点や改善点を適切に抽出し、適当な解決策を提示することができる。		問題点や改善点を抽出し、解決策を提示することができる。		問題点や改善点の抽出ができず、解決策を見つけることができない。	
データ分析		課題解決のための実験・実習を独自に適切に企画立案し、必要なデータを抽出、分析することができる。		実験・実習を企画立案し、必要なデータを抽出することができる。		必要な実験、実習を企画立案することができない。	
学科の到達目標項目との関係							
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力							
教育方法等							
概要		本実験では、本科で学んできた基礎知識を土台にしたより実践的な能力、すなわち、総合的なエンジニアリング・デザイン能力を養成することを目的とする。与えられた課題に対して計画・作業工程を立案し、必要となる実験や設計計算などを自ら計画・実践し、そこで生じる課題、問題点および改善点などを抽出し、それまでに培った基礎知識と自らの工夫を融合することで解決法を提案し、課題や問題に対する解決能力を養う。 この科目は企業で鋼橋の設計・施工の実務を担当していた教員がその経験を活かし、課題に対してグループで問題解決していく過程を指導していくものであり、実習形式で行うものである。					
授業の進め方・方法		自分たちの力で課題解決するための能力を養うため、授業はPBL方式で進められる。					
注意点							
選択必修の種別・旧カリ科目名							
規制技術に含まれるものはない							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
前期	1stQ	1週	課題解決に対する計画と工程の立案：与えられた課題を吟味し、遂行するための全体計画および作業工程を立案する		課題解決のための全体計画と行程を立案できる。		
		2週	課題解決に対する計画と工程の立案：与えられた課題を吟味し、遂行するための全体計画および作業工程を立案する		課題解決のための全体計画と行程を立案できる。		
		3週	課題解決に対する計画と工程の立案：与えられた課題を吟味し、遂行するための全体計画および作業工程を立案する		課題解決のための全体計画と行程を立案できる。		
		4週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
		5週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
		6週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
		7週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
		8週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
	2ndQ	9週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
		10週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
		11週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		
		12週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する		全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。		

後期		13週	作業の実施：作成した作業計画に基づき設計など課題解決に向けた具体的な作業を実施する	全体計画に基づき課題解決のため具体的な作業をチームで実施することができる。
		14週	問題点・改善点の抽出：1次作業から得られた成果を評価・分析し、課題に対する問題点・改善点を抽出する	1次作業から得られた成果の自己評価、分析、問題点の抽出などができる。
		15週	問題点・改善点の抽出：1次作業から得られた成果を評価・分析し、課題に対する問題点・改善点を抽出する	1次作業から得られた成果の自己評価、分析、問題点の抽出などができる。
		16週		
	3rdQ	1週	問題点・改善点の抽出：1次作業から得られた成果を評価・分析し、課題に対する問題点・改善点を抽出する	1次作業から得られた成果の自己評価、分析、問題点の抽出などができる。
		2週	問題解決方法の提示：各問題点や各改善点に対する具体的な解決方法を提案する	問題点を解決するための方法をグループで提案することができる。
		3週	問題解決方法の提示：各問題点や各改善点に対する具体的な解決方法を提案する	問題点を解決するための方法をグループで提案することができる。
		4週	問題解決方法の提示：各問題点や各改善点に対する具体的な解決方法を提案する	問題点を解決するための方法をグループで提案することができる。
		5週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
		6週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
		7週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
		8週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
	4thQ	9週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
		10週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
		11週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
		12週	各種実験によるデータ収集：問題解決のため必要に応じ材料、構造、土質、水理、環境計測実験などを行う	問題解決に必要となる実験、実習を企画し、実行してデータ収集を行い分析することができる。
		13週	プレゼンテーション：与えられた課題について上記の(1)-(5)で実践した内容を整理し、報告する	取り組んだ課題に対して、その内容全般をレポートとして整理し、プレゼンテーションを行うことができる。
		14週	プレゼンテーション：与えられた課題について上記の(1)-(5)で実践した内容を整理し、報告する	取り組んだ課題に対して、その内容全般をレポートとして整理し、プレゼンテーションを行うことができる。
		15週	プレゼンテーション：与えられた課題について上記の(1)-(5)で実践した内容を整理し、報告する	取り組んだ課題に対して、その内容全般をレポートとして整理し、プレゼンテーションを行うことができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
		最終発表	課題	合計	
総合評価割合		30	70	100	
専門的能力		30	70	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	建築計画論
科目基礎情報						
科目番号	94039			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	「新建築設計ノート」(彰国社) / 「新建築学大系21地域施設計画」(彰国社)、「コンパクト建築設計資料集成」(丸善)、適宜資料を閲覧・配布					
担当教員	亀屋 恵三子					
到達目標						
(ア)地域施設の概要と役割について理解している。 (イ)地域施設と制度について理解し、その問題点を提起し解決策を策定することができる。 (ウ)地域施設の設計に必要な基本的知識を有している。 (エ)地域施設のあり方に関して、自らの考えをまとめ説明することができる。 (オ)作成したレポートの内容は、密度の高い考察に基づくものであり、発表は的確に情報を伝えるものである。						
ルーブリック						
	最低限の到達レベルの目安(優)		最低限の到達レベルの目安(良)		最低限の到達レベルの目安(不可)	
評価項目(ア)	地域施設の基本知識を有し、概要と役割について整理し、論述することができる。		地域施設の基本知識を有し概要と役割について理解している。		地域施設の基本知識を有し概要と役割について理解していない。	
評価項目(イ)	地域施設と制度について理解し、その問題点を提起し解決策をダイアグラムを用いて説明できる。		地域施設と制度について理解し、その問題点を提起し解決策を策定することができる。		地域施設と制度について理解し、その問題点を提起し解決策を策定することができない。	
評価項目(ウ)	地域施設の設計に必要な基本的知識を有し、基本計画を行うことができる。		地域施設の設計に必要な基本的知識を有している。		地域施設の設計に必要な基本的知識を有していない。	
評価項目(エ)	地域施設のあり方に関して、自らの考えをレポートとスライドにまとめ、わかりやすく説明することができる。		地域施設のあり方に関して、自らの考えをレポートとスライドにまとめ、説明することができる。		地域施設のあり方に関して、自らの考えをレポートとスライドにまとめ、説明することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B3 建築分野の実社会に必要で役立つ知識や技術を応用して問題を解決する能力を修得する。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力						
教育方法等						
概要	本講義では、建築物の計画から設計理論・方法について、設計の実務的観点から知識を習得する。施設計画での利用者は不特定多数であり、かつ職員は特定多数という特徴を持つ。しかしながら、計画学は常に利用者の視点を持つことが肝要である。特に本講義では、利用者がもっとも弱い立場にある「病院」および「高齢者施設」を取り上げ、利用者の観点から設計に必要な実務的知識を学ぶ。そして、現状の制度的あるいは施設の課題点について議論し、今後の医療・福祉施設のあり方について知見を得る。					
授業の進め方・方法	配布プリントとパワーポイントを用いて、授業を進める。					
注意点	施設の計画のみならず、具体的設計理論について学ぶため、履修にあたっては建築計画・設計の基本的知識を有していることが望ましい。授業内容に該当する項目について、科目担当教員の薦める文献等で予め調べてくること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
前期	1stQ	週	授業内容		週ごとの到達目標	
		1週	ガイダンス(授業の概要、スケジュール、課題について説明)、地域施設の概念		地域施設の概念、目的について理解できる	
		2週	地域施設の役割と社会の動き		地域施設の変遷と役割について理解できる	
		3週	地域施設の役割と社会の動き		地域施設の役割を建築計画の立場から理解できる	
		4週	地域施設の種類		地域施設の様々な種類についてそれぞれの特徴を理解することができる	
		5週	地域施設と制度		地域施設の制度について理解することができる	
		6週	地域施設の計画(計画の要点、基本計画、平面計画)		地域施設の計画の要点について理解できる	
		7週	地域施設の計画(計画の要点、基本計画、平面計画)		地域施設の基本計画の手法について理解することができる	
	8週	地域施設の計画(計画の要点、基本計画、平面計画)		地域施設の基本計画の具体事例を分析することができる		
	2ndQ	9週	地域施設の計画(計画の要点、基本計画、平面計画)		地域施設の基本計画の具体事例を分析することができる	
		10週	地域施設の計画(計画の要点、基本計画、平面計画)		地域施設の平面計画の行い方、ゾーニング方法について理解できる	
		11週	地域施設の計画(計画の要点、基本計画、平面計画)		地域施設の平面計画の行い方、動線計画について理解できる	
		12週	事例分析(課題:各自タイプ別に分析し、レポート作成・発表)		各自、見学したい地域施設を決定し、施設間で調整を行うことができる	
		13週	先駆事例等		地域施設の先駆事例について紹介し、それについて討議することができる	
14週		調査レポート発表(課題:各自施設を選定・見学し、調査レポートを作成・発表)		調査レポートをまとめ、発表することができる		

	15週	調査レポート発表（課題：各自施設を選定・見学し、調査レポートを作成・発表）	調査レポートをまとめ、発表することができる		
	16週				
モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標					
分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	レポート	レポート	レポート	合計
総合評価割合	40	20	20	20	100
専門的能力	40	20	20	20	100

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	水資源学
科目基礎情報						
科目番号	94043			科目区分	専門 / 選択	
授業形態	講義			単位の種別と単位数	学修単位: 2	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	前期			週時間数	2	
教科書/教材	「水文学」風間 聡 著 コロナ社 ISBN:978-4-339-05628-0					
担当教員	江端 一徳					
到達目標						
(ア)地球規模や地域の水循環について説明できる。 (イ)蒸発と蒸散のメカニズムを理解し、代表的な推定式で計算できる。 (ウ)ホートン式、フィリップ式、リチャーズ式を理解し、浸透量・率の計算ができる。 (エ)キネマティックウェーブモデル、タンクモデル法を理解し、流出予測計算の基礎を身につける。 (オ)確率紙を用いた降水量や洪水量の頻度解析ができる。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目1	蒸発と蒸散のメカニズムを理解し、代表的な推定式で計算できる。異なる水文条件下での蒸散推定式の適用ができる。		蒸発と蒸散のメカニズムを理解し、代表的な推定式で計算できる。		蒸発と蒸散のメカニズムを理解できない。	
評価項目2	洪水の流出過程を理解し、単位図法、貯留関数法、タンクモデル法等、代表的な流出推定法を理解し、各々について正確に流出計算ができる。		洪水の流出過程を理解し、単位図法、貯留関数法、タンクモデル法等、代表的な流出推定法を理解する		洪水の流出過程は理解しているが、代表的な流出推定法を理解できない。	
評価項目3	統計水文の基礎を理解し、正規分布と対数正規分布を異なる水文条件下で適用できる。頻度解析に習熟する。		統計水文の基礎を理解し、正規分布と対数正規分布の適用ができる。頻度解析ができる。		統計水文の基礎である代表的な確率密度関数が理解できず、水文流出計算への適用が理解できない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 B1 数学、自然科学および情報工学の基礎理論に裏打ちされた知識や技術を体系的に修得する。 JABEE c 数学及び自然科学に関する知識とそれらを応用する能力 本校教育目標 ② 基礎学力						
教育方法等						
概要	水文学は、地球上の水の発生、循環、分布および物理的・化学的特性に至る地球の水循環に関するあらゆる現象を包括した学問である。本講義を通じて、地球と流域・地域の水循環メカニズムを科学的に理解し、人間生活に必要な水資源管理や水工学の技術的な手法を修得する。この科目は、民間企業で上下水道施設の設計に携わっていた者が担当する。					
授業の進め方・方法	授業は適宜、配布プリントを使用して行う。					
注意点	毎回、関数電卓を用意すること。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
規制技術に含まれるものはない						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☒ 実務経験のある教員による授業
必履修						
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	水文学的水循環：グローバル水循環とメソスケール水循環、さまざまな水文量（自学自習内容：住んでいる地域の水文量を調べる）		地球規模と地域内での水循環について説明できる。	
		2週	水文学的水循環：グローバル水循環とメソスケール水循環、さまざまな水文量（自学自習内容：住んでいる地域の水文量を調べる）		地球規模と地域内での水循環について説明できる。	
		3週	蒸発散：水収支と熱収支，蒸発散推定モデル（自学自習内容：蒸発散のメカニズムについてまとめる）		蒸発と蒸散のメカニズムを理解し、代表的な推定式で計算できる。	
		4週	蒸発散：水収支と熱収支，蒸発散推定モデル（自学自習内容：蒸発散の推定式の導出を復習する）		蒸発と蒸散のメカニズムを理解し、代表的な推定式で計算できる。	
		5週	蒸発散：水収支と熱収支，蒸発散推定モデル（自学自習内容：蒸発散の推定式を用いた演習課題を解く）		蒸発と蒸散のメカニズムを理解し、代表的な推定式で計算できる。	
		6週	土壌浸透（ホートン式、フィリップ式、リチャーズ式）（自学自習内容：土壌浸透式に関する演習問題を解く）		土壌浸透現象を理解し、代表的な推定式で計算できる。	
		7週	土壌浸透（ホートン式、フィリップ式、リチャーズ式）（自学自習内容：土壌浸透式に関する演習問題を解く）		土壌浸透現象を理解し、代表的な推定式で計算できる。	
		8週	流出モデル：タンクモデル、キネマティックウェーブ法（自学自習内容：タンクモデルを用いた流出計算問題を解く）		タンクモデルのモデル構造を理解できる。	
	2ndQ	9週	流出モデル：タンクモデル、キネマティックウェーブ法（自学自習内容：キネマティックウェーブモデルを用いた流出計算問題を解く）		キネマティックウェーブモデルのモデル構造を理解できる。	
		10週	流出モデル：タンクモデルを用いた流出解析（自学自習内容：流出モデルを用いた流出計算問題を解く）		タンクモデルのモデル構造を理解し、それをプログラミングできる。	
		11週	流出モデル：タンクモデルを用いた流出解析（自学自習内容：流出モデルを用いた流出計算問題を解く）		タンクモデルのモデル構造を理解し、それをプログラミングできる。	

		12週	流出モデル：タンクモデルを用いた流出解析（自学自習内容：流出モデルを用いた流出計算問題を解く）	タンクモデルを用いて流出計算ができる。
		13週	流出モデル：タンクモデルを用いた流出解析（自学自習内容：流出モデルを用いた流出計算問題を解く）	タンクモデルを用いて流出計算ができる。
		14週	水文量の確率統計解析：リターンピリオド、水文頻度解析、時系列解析（自学自習内容：リターンピリオドについて復習する）	統計水文の基礎を理解し、正規分布と対数正規分布の適用ができる。
		15週	水文量の確率統計解析：リターンピリオド、水文頻度解析、時系列解析（自学自習内容：確率紙を用いた水文頻度解析の演習課題を解く）	確率紙を用いた降水量や洪水量の頻度解析ができる。
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
	定期試験	課題	小テスト	合計	
総合評価割合	50	20	30	100	
専門的能力	50	20	30	100	

豊田工業高等専門学校		開講年度	令和06年度 (2024年度)		授業科目	特別研究 I
科目基礎情報						
科目番号	94502			科目区分	専門 / 必修	
授業形態	研究			単位の種別と単位数	学修単位: 4	
開設学科	建設工学専攻A			対象学年	専1	
開設期	通年			週時間数	2	
教科書/教材	特に指定しない					
担当教員	鈴木 健次,山田 耕司,竹下 純治,前田 博子,亀屋 恵三子,森上 伸也,白田 太,縄田 諒,木藤 一輝,熊谷 透					
到達目標						
(ア)研究テーマ周辺についての基礎知識を得て、研究の背景、動機、目的についてよく理解する。 (イ)研究指導教員とコミュニケーションをとり研究をすすめることができる。 (ウ)研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することができる。 (エ)信頼性の高いデータ収集が実験や調査などを通して行うことができる。 (オ)得られたデータを適正な工学的手法を用いて解析し、考察することができる。 (カ)研究成果を図表、数式等を有効に用いて研究概要にまとめることができる。 (キ)研究内容について自分の考えを表現し、口頭で分かりやすくプレゼンテーションできる能力がある。						
ルーブリック						
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
評価項目(ア)	研究テーマ周辺についての基礎知識を得て、研究の背景、動機、目的についてよく理解している。		研究テーマ周辺についての基礎知識を得て、研究の背景、動機、目的について概ね理解している。		研究テーマ周辺についての基礎知識を得て、研究の背景、動機、目的について理解していない。	
評価項目(イ)	研究指導教員とコミュニケーションをとり研究をすすめることができる。		研究指導教員とコミュニケーションをとり研究をすすめることが概ねできる。		研究指導教員とコミュニケーションをとり研究をすすめることができない。	
評価項目(ウ)	研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することができる。		研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することが概ねできる。		研究上の問題点や修正点を自ら提起し、解決することができない。	
学科の到達目標項目との関係						
学習・教育到達度目標 A 社会の変化・要請を捉えて、問題を分析・抽出し、様々な条件の下、専門知識・技術を用いて、問題を解決するもしくは新たな提案を発する能力を修得する。 学習・教育到達度目標 D1 日本語により論理的な記述、口頭発表、討議等ができる。 JABEE d 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力 JABEE e 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力 JABEE f 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力 JABEE g 自主的、継続的に学習する能力 本校教育目標 ① ものづくり能力 本校教育目標 ③ 問題解決能力 本校教育目標 ④ コミュニケーション能力						
教育方法等						
概要	科学、工学分野における研究は、人類の持続的発展を目指し、自然および地球規模の安全と活用を図るために行われるべきものである。建設工学専攻では自然を尊重しながら現在および将来の人々の安全と福祉、健康に対する責任を最優先として、本科における卒業研究を基礎に更に深く専門の内容を掘り下げ、理解を深め、創造的に研究を進める。特別研究 I では研究計画の立案、調査・計測・実験によるデータ収集、結果の考察を行い、概要作成および研究発表を行う。					
授業の進め方・方法						
注意点	単位時間の配分は平均的な目安であり、担当教員によって差異がある。					
選択必修の種別・旧カリ科目名						
授業の属性・履修上の区分						
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業
授業計画						
		週	授業内容		週ごとの到達目標	
前期	1stQ	1週	研究テーマに関する当該研究の背景、基礎的知識、研究目的について学ぶ		上記 (ア) (イ)	
		2週	研究テーマに関する当該研究の背景、基礎的知識、研究目的について学ぶ		上記 (ア) (イ)	
		3週	研究テーマに関する当該研究の背景、基礎的知識、研究目的について学ぶ		上記 (ア) (イ)	
		4週	研究指導教員との研究課題に関するディスカッション		上記 (ア) (イ) (ウ)	
		5週	研究指導教員との研究課題に関するディスカッション		上記 (ア) (イ) (ウ)	
		6週	研究指導教員との研究課題に関するディスカッション		上記 (ア) (イ) (ウ)	
		7週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成		上記 (ア) (イ) (ウ) (エ)	
		8週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成		上記 (ア) (イ) (ウ) (エ)	
	2ndQ	9週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成		上記 (ア) (イ) (ウ) (エ)	
		10週	研究計画の立案：実験、分析、解析内容を考慮した研究フローチャートの作成		上記 (ア) (イ) (ウ) (エ)	
		11週	データ収集：実験、計測、観測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集		上記 (イ) (ウ) (エ) (オ)	
		12週	データ収集：実験、計測、観測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集		上記 (イ) (ウ) (エ) (オ)	

後期		13週	データ収集：実験、計測、観測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		14週	データ収集：実験、計測、観測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		15週	データ収集：実験、計測、観測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		16週		
	3rdQ	1週	データ収集：実験、計測、観測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		2週	データ収集：実験、計測、観測、観察、アンケート調査などによる研究データの収集	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		3週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法による解析	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		4週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法による解析	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		5週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法による解析	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		6週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法による解析	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		7週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法による解析	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		8週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法による解析	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
	4thQ	9週	結果の考察：実験などを通して得られた結果の科学的分析や数理手法による解析	上記（イ）（ウ）（エ）（オ）
		10週	研究論文作成：研究の背景、目的、内容、結果、今後の展開等	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）（カ）（キ）
		11週	研究論文作成：研究の背景、目的、内容、結果、今後の展開等	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）（カ）（キ）
		12週	研究論文作成：研究の背景、目的、内容、結果、今後の展開等	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）（カ）（キ）
		13週	研究論文作成：研究の背景、目的、内容、結果、今後の展開等	上記（ア）（イ）（ウ）（エ）（オ）（カ）（キ）
		14週	研究発表：研究成果のプレゼンテーション	上記（オ）（カ）（キ）
		15週	研究発表：研究成果のプレゼンテーション	上記（オ）（カ）（キ）
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類	分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
評価割合					
			最終発表	合計	
総合評価割合			100	100	
専門的能力			100	100	